

センター・室

01. 内視鏡センター	163
02. 外来化学療法センター	165
03. 移植センター	166
04. 感染対策室	168
05. 医療安全管理室	170
06. 地域医療連携室	173
07. 救急運営対策室	176
08. 緩和ケア推進室	178
09. NST (Nutrition Support Team) 室	180
10. 医療機器管理室	182
11. 情報システム管理室	184
12. 図書室運営室	186
13. 医療広報推進室	188
14. 環境整備室	190
15. 患者サービス推進室	194
16. 国際医療協力室	197
17. 母乳育児推進室	199
18. ボランティア室	201
19. 患者サポート室	202
20. 認知症ケア推進室	204
21. 専門医研修室	206
22. 泌尿ケア推進室	208
23. 褥瘡対策室	209
24. RRS (Rapid Response System) 室	212
25. がん登録室	213
26. がんゲノム医療センター	215

内視鏡センター

センター長 万波 智彦（消化器内科）
副センター長 佐藤 賢（呼吸器内科）

● 内視鏡センターの特色

- ・苦痛の少ない鼻から挿入する経鼻内視鏡検査や拡大して病変の詳細な観察が出来る拡大内視鏡検査をはじめ、現在国内で施行可能な内視鏡検査のほぼ全てが施行できる。
- ・上部消化管・下部消化管・胆膵内視鏡を中心に、消化器疾患全般を診療している。
- ・上下部内視鏡において、腫瘍の早期発見、範囲同定を拡大観察や特殊光を用いた狭帯光観察(NBI)で行っている。
- ・内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を用いた、消化管の早期癌に対する内視鏡的治療に力を入れている。
- ・ダブルバルーン小腸内視鏡、小腸カプセル内視鏡の両者を導入しており、多彩な小腸疾患にも対応可能である。

● 内視鏡検査実績

1) 検査件数

上部内視鏡総数	下部内視鏡総数	ERCP 総数	カプセル内視鏡	ダブルバルーン 小腸内視鏡	気管支鏡
2,688	1,393	227	(小腸)50(大腸)0	35	356

2) 詳細

a) 上部消化管内視鏡

種類	件数
ESD	76
EMR・ポリープ切除	13
EUS	113
PEG	26
ステント挿入	12
止血術	50
EIS・EVL	9
APC 焼灼(止血以外)	11
異物除去	8
バルーン拡張	14
FNA	20
オペ室/ICU 出張	1
経鼻	58
LECS	2
イレウス管	28
マーキング	47

b) 下部消化管内視鏡

種類	件数
EMR・ポリープ切除	245
ESD	45
EUS	8
ステント挿入	8
止血術	37
捻転整復術	9
イレウス管	1
マーキング	9
APC 焼灼(止血以外)	6

c) ERCP

種類	件数
造影のみ	10
EST	60
EML	39
排石	81
ENBD	1
ERBD	101
EPBD	9
膵管ステント	24
ブラス細胞診	16
ステント挿入	16
胆汁採取	24
膵液採取	7
IDUS	17

3) 研修、教育

地域合同 ESD カンファレンス

1 回/月

読影カンファレンス

1 回/週

外来化学療法センター

センター長 角南 一貴(臨床研究部長)

● 活動目的

➤ 運営目標

- ・患者さんに快適な治療環境を提供します。
- ・安全で確実な投与に努めます。
- ・患者さんが自己管理できるように支援します。
- ・治療に関する情報提供に努めます。

● 活動状況

➤ 2021 年度の活動状況

・2021 年度外来化学療法センター利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液内科	159	131	151	162	144	185	170	183	177	181	175	189	2,007
呼吸器内科	49	43	43	51	39	41	41	38	40	38	46	63	532
消化器内科	103	102	97	99	113	90	80	78	87	93	81	77	1,100
腫瘍内科	9	6	12	8	11	8	5	9	5	8	6	9	96
乳腺・甲状腺外科	27	31	31	28	36	31	38	29	41	22	39	37	390
泌尿器科	3	9	7	6	10	15	8	12	13	16	9	14	122
脳神経外科	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
婦人科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
腎臓内科(リウマチ科)	4	2	2	2	2	3	2	2	2	2	4	3	30
整形外科	2	3	2	2	3	3	2	2	2	1	1	2	25
耳鼻科	5	4	4	4	4	4	6	5	9	10	5	16	76
皮膚科	0	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	6
小児科	0	1	0	2	0	1	0	1	1	0	1	0	7
神経内科	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
合計	368	335	349	365	362	383	353	359	378	371	368	410	4,401

* 2014 年 8 月よりデノスマブ、ホルモン療法剤は外来処置センターへ移行。

・2021 年度外来化学療法センターベッド利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均(件)
1日平均利用状況	17.5	18.6	15.8	18.3	17.1	17.5	14.3	15.5	16.1	16.4	17.9	15.2	16.7

● 活動目的

1. 当院は臓器移植に関わる業務を施行しており、院外の関連機関とも連携し移植医療に関する情報を社会一般に発信し啓発活動を行っています。

● 活動状況

1. HLA 検査施設としての活動; 当院は腎移植施設だけではなく、岡山県の HLA 検査施設および日本臓器移植ネットワークの特定移植検査センターに指定されており、その業務を行っています。
 - 1) 生体腎移植前のドナー、レシピエントの免疫学的評価—ヒト白血球抗原(HLA)タイピング、リンパ球交叉試験(直接細胞障害性検査及びフローサイトメトリー法)、抗 HLA 抗体スクリーニング・同定検査、ABO 不適合移植の際の抗 A,B 抗体の力価の測定など—を行っています。
 - 2) 献腎移植登録時の HLA タイピング、血清の保存。1年ごとの登録更新時に血清の交換、保存。
 - 3) 岡山県及び近県で臓器提供があった場合、日本臓器移植ネットワークの要請のに基づき、当院でドナーの HLA タイピング、レシピエント候補との交叉試験を行い、臓器移植ネットワークに報告しています。
 - 4) 腎移植レシピエントの抗 HLA 抗体モニタリング検査を移植後1年毎に行っています。

2021 年度の移植関連検査

	件数
● 献腎移植登録希望者新規登録時のHLAタイピング	39
● 生体腎のHLAタイピング(ドナー+レシピエント)	43
● 生体腎移植リンパ球クロスマッチ (CDC、FCXM)	31
● 抗 HLA 抗体検査(スクリーニング・特異性同定)	272
● 移植ドナー検査(脳死+心停止)	
岡山:5 件 兵庫:2 件 香川:1 件 滋賀:1 件	
HLAタイピング	10
クロスマッチ数(レシピエント候補数)	275
外部精度管理	
移植学会(2021 年 4 月実施)	
組織適合性学会(2021 年 4 月実施)	

2. レシピエント・コーディネーターの活動; 臓器移植医療とはドナーとレシピエントの存在によって成立するという特殊性のため、レシピエント・コーディネーターは、医療チームと患者・家族の間に立ち、臓器移植プロセスを円滑に実施できるように調節する専門職です。
 - 1) 生体腎移植の際には、移植前のドナー、レシピエント評価より関わり、ドナーの意思確認、意思決定などを援助します。移植が決まった際にはドナー、レシピエント及びその家族に、移植医療の実際を具体的、総合的に説明し円滑に移植が行われるように支援します。
 - 2) 腎移植外来でレシピエントのフォローに関わり、患者の身体的管理、精神的援助を行います。

3. 公益財団法人岡山臓器バンク、公益社団法人日本臓器移植ネットワークと連携し移植医療一般の啓蒙、脳死下・心停止後の臓器提供が円滑に施行できるように社会活動を行っています。
 - 1) 県臓器バンクの移植コーディネーターと密に連携し献腎移植が円滑に行えるように準備しています。
 - 2) 県臓器バンクのコーディネーターと共同で腎移植医療の実際、献腎移植の登録法などについての講演会を透析施設で行っています。
 - 3) 県臓器バンク主催の臓器移植に関する講演会、啓蒙活動を支援しています。

● 研究業績

腎臓移植外科の研究業績と同一。

● 活動目的

- 1) 決定機関である院内感染対策委員会とその実働組織として院内感染対策チーム(ICT)の連携をよりスムーズに進め、迅速かつ柔軟に、データの集積、管理の一本化、院内感染対策防止の窓口として機能的に対処する。
- 2) 抗菌薬の選択、投与に関する診療支援を行い、抗菌薬適正使用を推進する。

● 活動状況

1. 教育活動

- 1) 院内講演会の開催(年2回)
 - 第1回「新型コロナウイルス感染症 当院の状況」「薬剤耐性対策(AMR)アクションプランの成果」
参加率:90.2%
 - 第2回「クロストリディオイデス・ディフィシル」 参加率:89.7%
- 2) 勉強会・講義等の開催、講師派遣
 - 勉強会:新採用者、医療クラーク
 - 講義:看護学校
 - 講師派遣:金川病院

2. 院内ラウンド

- 1) 抗菌薬適正使用に向けて使用状況の確認
ASTミーティングの実施
- 2) 感染対策実施状況の確認
マスクの適切な装着状況、ゴミの分別状況、針捨てボックスの使用状況の確認

3. アウトブレイクの防止

- 1) 新型コロナウイルス対策
- 2) 耐性菌対策
 - カルバペネム耐性腸内細菌科細菌:6件(2020年度:7件)
(このうちカルバペネマーゼ産生菌:1件)
 - バンコマイシン耐性腸球菌:0件(2020年度:2件)
- 3) インフルエンザ
職員および入院患者の発生はなかった。

4. サーベイランス

1) SSI サーベイランス(JANIS)

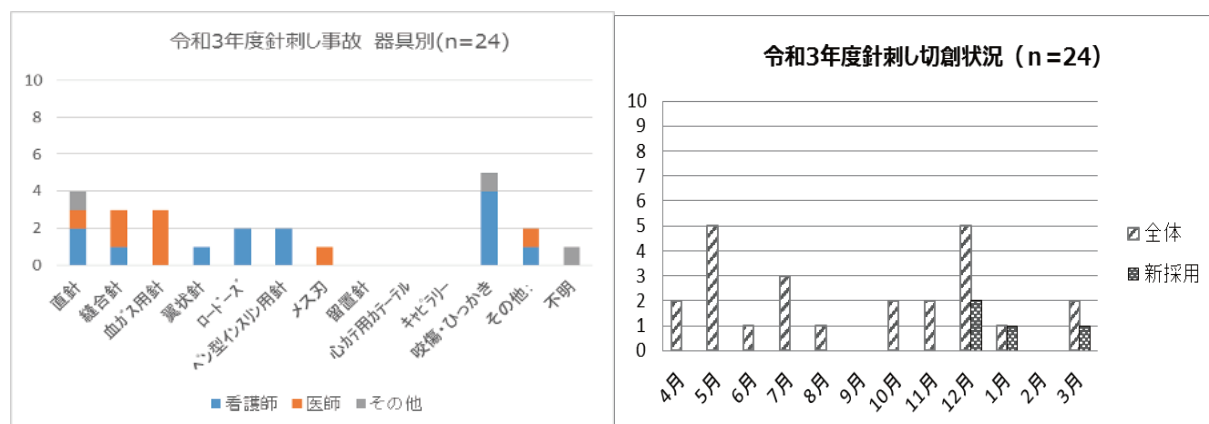
対象手術件数(2020/4/1~2021/3/31)

	RI:M	RI:0	RI:1	RI:2	RI:3
COLO	10	42	21	0	0
REC	11	4	3	0	0

感染率(%)

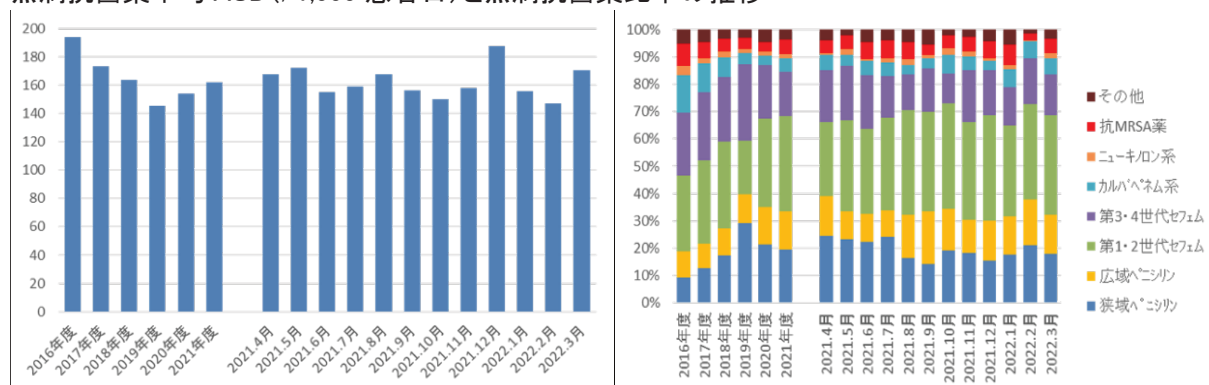
	RI:M	RI:0	RI:1	RI:2	RI:3
COLO	0	2.4	0	-	-
REC	9.1	0	0	-	-

2) 針刺し切創サーベイランスと皮膚粘膜汚染サーベイランス



5. 抗菌薬の適正使用

点滴抗菌薬平均 AUD(/1,000 患者日)と点滴抗菌薬比率の推移



6. 感染対策防止加算にかかる活動

(1) 感染対策防止加算 2 の連携施設(金川病院、済生会吉備病院、岡山中央病院、金田病院)と合同カンファレンスの実施(全て Web 開催)

第 1 回「クロストリディオイデス・ディフィシルについて」

第 2 回「新型コロナウイルス第 5 波について」

第 3 回「当院の新型コロナウイルス院内感染事例について」

「新型コロナウイルス感染症対応について」

第 4 回「耐性菌、抗菌薬使用の状況」

(2) 連携病院との相互訪問 (地域連携加算: 年 1 回の相互訪問の実施)

12 月 3 日 岡山赤十字病院から訪問

10 月 25 日 岡山赤十字病院へ訪問

●活動目的

1. 目的

当院における適切な医療安全管理を推進する。

2. 活動内容

1) 医療安全に関する日常活動に関すること

2) 委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存並びにその他委員会の庶務に関すること

① 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査

(定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検)

② マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等

③ インシデントレポートの収集、分析、再発防止策の検討、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価

④ 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知

⑤ 医療安全に関する職員への啓発、広報

⑥ 医療安全に関する教育研修の企画・運営

⑦ 医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告

⑧ 医療安全管理に係る連絡調整

3) 医療事故発生時の指示、指導等に関すること

① 診療録や看護記録等の記載、医療事故報告書の作成等について、職場責任者に対する必要な指示、指導

② 患者や家族への説明など、事故発生時の対応状況について、職場責任者に対する必要な指示、指導

③ 警察等の行政機関並びに報道機関等への対応(窓口は、管理課長とする)

④ 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導

⑤ 医療事故の原因分析に関すること

⑥ 医療事故報告書の保管

4) その他医療安全対策の推進に関すること

5) 医療安全管理室を中心にセーフティマネージャー会議を設置する。会議の開催は概ね月1回とする。委員は院長が指名する。

3. 医療安全管理室の運営目標(2021 年度)

1. 組織横断的なメンバー活動を強化し、各部門での医療安全に対する認識・実践力を高める

2. 報告しやすい文化を醸成し、インシデント報告件数を昨年度よりも増やす(2020 年度:3245 件)

3. 病院機能評価の受審に向けてマニュアル・基準の見直しと必要なマニュアルの作成

●活動状況

1. 医療安全活動状況

a) 医療安全管理マニュアル等の改定

1. 医療事故発生時の対応マニュアル
2. 医療安全管理マニュアル
3. 常備薬管理マニュアル
4. ハイリスク薬管理手順
5. 岡山医療センターにおける指示伝達及び確認マニュアル
6. 虐待対応マニュアル(DV・児童・高齢者・障害者)
7. 暴力(暴行・暴言)・業務妨害・セクハラ等対応マニュアル
8. 中心静脈カテーテル挿入に関する指針
9. 手術誤認防止マニュアル
10. 病理結果未確認マニュアル
11. 放射線読影レポート未読確認マニュアル

b) 医療安全対策地域連携加算に関する活動

(医療安全対策加算 85 点)

1-1 連携病院

(南岡山医療センター、落合病院、金田病院)

- ① 12/6 金田病院(WEB 会議)
- ② 1/28 南岡山医療センター(WEB 会議)

1-2 連携病院

(岡山中央病院、赤磐医師会病院、金川病院)

- ① 1/11 岡山中央病院(WEB 会議)
- ② 2/25 赤磐医師会病院(WEB 会議)
- ③ 3/15 金川病院(WEB 会議)

c) 医療安全相互チェック(機構病院)

- ① 12/10 九州医療センターをチェック(WEB 会議)
- ② 12/17 オブザーバー参加(WEB 会議)
- ③ 12/24 当院が姫路医療センターからチェック(WEB 会議)

d) 研修企画

・医療安全管理研修会(必須研修)

「RRS って何？」9/13～24

(受講人数 1,162 名、受講割合 93.1%)

「[Transfer technique][Skin tear]」1/12～20

(受講人数 1,046 名、受講割合 86.0%)

・対象者別研修

「MRI の安全について」5/10 (77 名)

「医薬品安全使用のための研修会」1/27 (205 名)

「放射線安全管理研修」3/3 (93 名)

e) インシデントの集計・分析・改善策実施・共有化

f) 医療安全通信・安全情報による注意喚起・web

g) 広報誌(ザ・ジャーナル)への投稿掲載 3 回/年

h) 多職種チームによる院内ラウンド

(転倒・転落防止)(救急カート)(薬剤)

i) 洗濯物混入調査の実施 1 回/月(全 13 回)

j) 病棟・部署ラウンドとラウンド結果報告

k) 転倒転落ラウンド(看護記録チェック、環境チェック)

l) クレーム・小児虐待疑い等の対応

m) 「医療安全推進ジャーナル」の回覧・図書室配置

n) 国立病院機構 QC 活動 活動報告参加

o) 経腸栄養分野 誤接続防止コネクタの導入

p) 肺血栓塞栓症/深部静脈血栓塞栓症リスク評価システムの導入

q) 病院機能評価受審

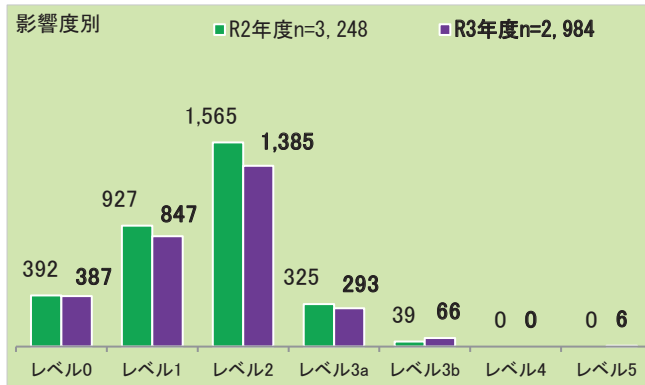
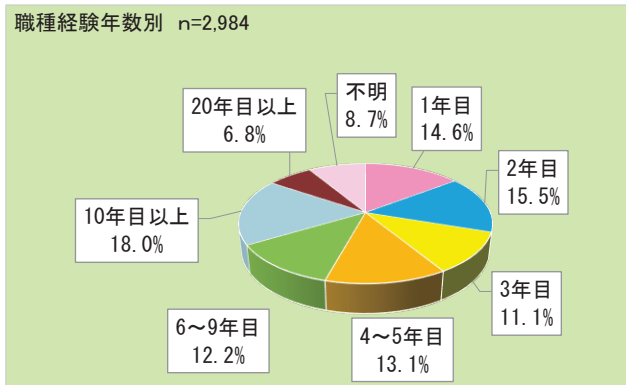
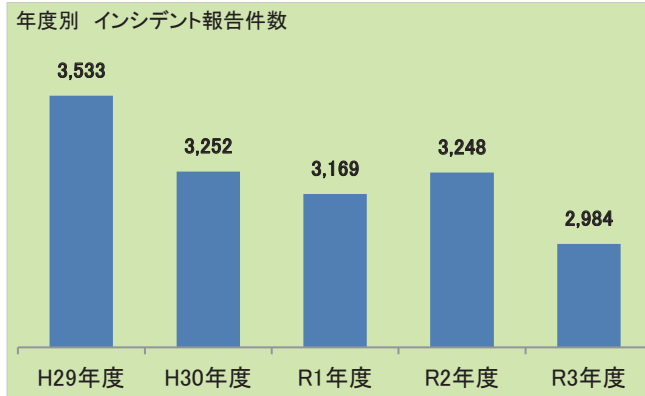
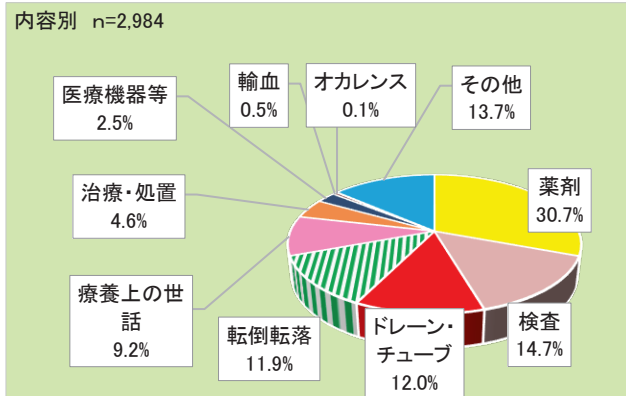
2. 報告事例から改善・対策したこと

- ① 心電図モニター装着時は、電極外れのアラームを ON にしておくことを一般病棟で統一した
- ② 病棟の心電図モニター、12 誘導心電図、PHS の時計合わせの定期的な実施について再度方法等含め指導し、1 回/月実施した
- ③ 霊安室の冷蔵庫内のご遺体の取り扱い(切断肢を含む)、確認について看護基準・手順に追加を依頼
- ④ ステプティ(圧迫止血用パッド付き絆創膏)の動脈用の採用
- ⑤ 手術開始前のタイムアウト実施時、手術部位の確認は画像を見ながら行うように統一
- ⑥ 手術部位のマーキング方法の見直しと徹底
- ⑦ 体内遺残防止のため、術後レントゲン撮影の取り決め、術野に出したすべての機材や物品のカウントについて手術室マニュアルの改訂を手術室に依頼
- ⑧ PICC 外来開設を診療部に依頼
- ⑨ 中心静脈カテーテル挿入に関わる認定制度の構築 診療部に依頼(2022 年度開始予定)

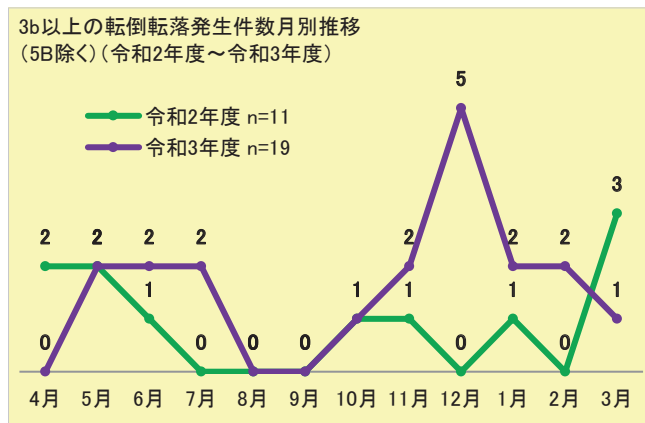
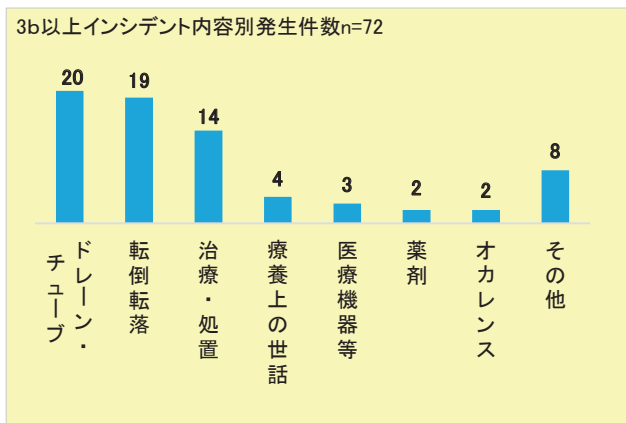
<令和3年度 転倒転落ラウンド件数>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
16	23	13	18	13	10	15	14	14	20	20	16	192

<令和3年度インシデント報告状況>



<令和3年度 3b以上アクシデントについて>



地域医療連携室

室長代理 太田 康介(副統括診療部長)

副室長 溝内 育子(看護師長)

●活動目的

当院における前方、院内、後方医療連携の円滑かつ効果的な実施を推進する。

●活動状況

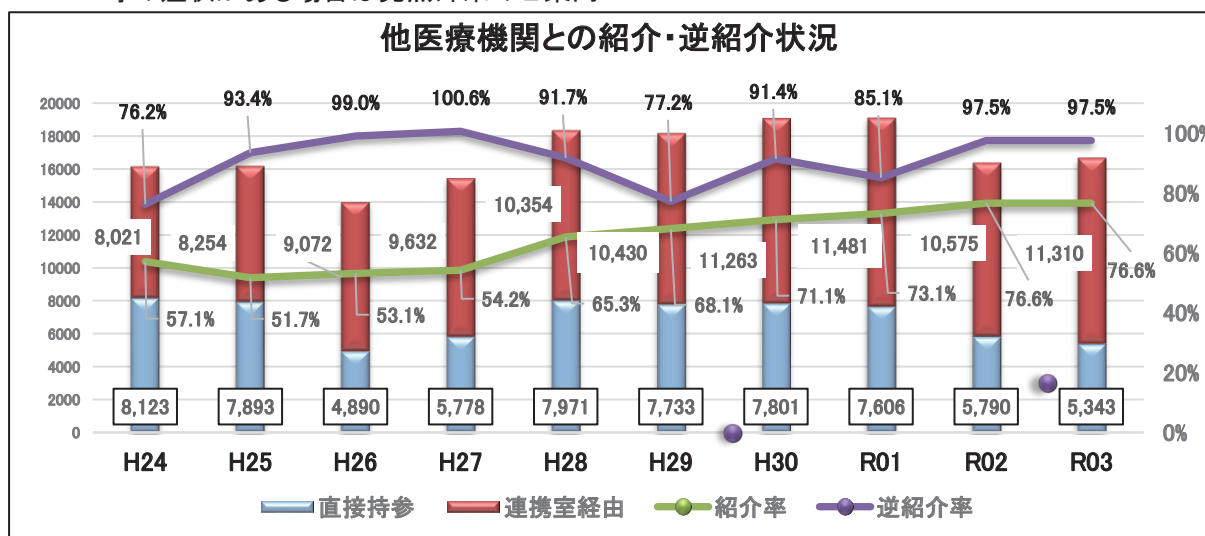
1. 前方連携業務

令和2年度に引き続き、3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域医療連携室のタベは開催中止となった。地域連携医療機関への広報活動としてFAX通信やホームページを適宜更新するなどして情報発信を行った。また、逆紹介率向上を目指して、かかりつけ医検索システム「メディマップ」を導入した。患者の居住地区周辺の医療機関情報を検索することができている。

1) 主な活動内容

- (1) 地域医療機関からの患者紹介に対する窓口業務(救急患者および転院入院患者の紹介含む)
- (2) 新入院患者の紹介元との調整業務
- (3) 地域医療機関との情報交換(開放病床運営委員会、地域医療支援委員会、地域医療研修案内等)
- (4) 晴れやかネットによる他医療機関への情報開示
- (5) 紹介・逆紹介に関するデータ抽出・統計業務および定期報告(紹介率、逆紹介率等)
- (6) セカンドオピニオン外来の受け入れ窓口
- (7) 新型コロナウイルス感染症に対する院内感染防止策を地域医療機関へ発信

新型コロナウイルス感染症に関する問診票・体調管理等確認表の提出依頼、紹介患者が発熱等の症状がある場合は発熱外来のご案内



2. 院内連携業務

- 1) 地域医療研修セミナー等による情報提供

3. 後方連携業務

地域医療連携室と退院支援専任看護師が協働し、地域医療連携室の介入がない場合にも退院支援計画書を着手、作成し運用方法を変更した。その結果、入退院支援加算1の算定件数が、令和2年度2186件、令和3年度3913件となり1727件増加した。

1) 主な活動内容

(1) 退院における地域医療機関との調整

(2) 退院支援運用システムの改訂

入院後3日以内に病棟看護師が行う「入院時退院計画リスクアセスメントスクリーニング票」に基づき、定期病棟ラウンドを行う。病棟カンファレンスに参加して情報共有を行い退院支援の進捗状況を確認する。退院支援専任看護師による退院支援計画書の着手、作成の支援。

(3) 地域連携パス(脳卒中、大腿骨頸部骨折、がん)の運用および他施設との情報交換

(4) 社会福祉サービス手続きに関する情報提供

(5) 院内外多職種連携事例検討会の開催(1回/年)

(6) MSW 新人教育プログラムの作成と運用

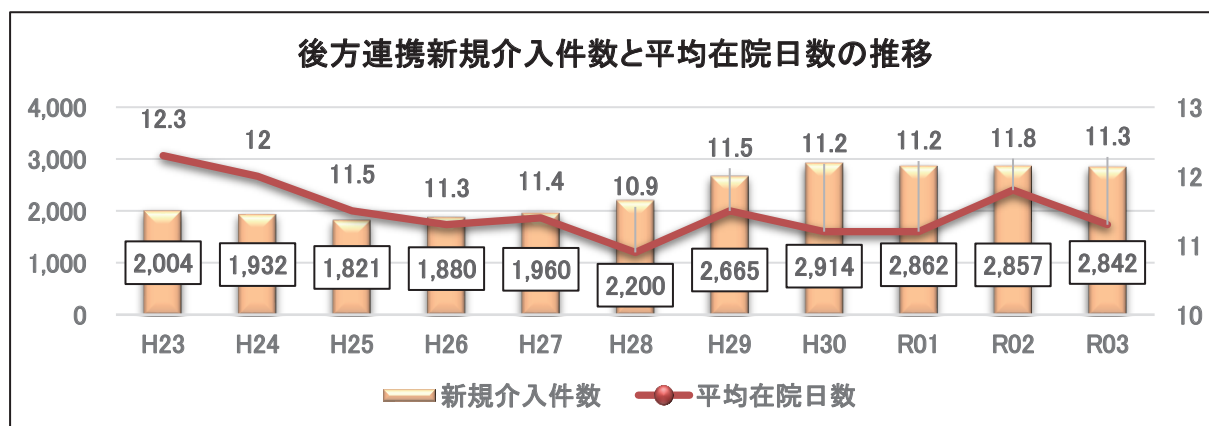
(7) 電子カルテシステム更新に伴う医療福祉相談管理内容の検討

(8) 退院支援専任者会議の運営

(9) 退院調整に関する事例検討会(MSW・退院調整看護師 5回/年)

(10) もも脳ネット運営の協力

(11) がん相談支援センター運営会議への参画



4. 院外連携業務

1) ぼうさいやどかりおかやまへの協力

「災害時医療的ケア児の発災初期入院応需」運用開始

岡山県医師会小児科部会・岡山県小児科医会

2) 岡山市北部合同連携デスクの運用 2020 年度合同連携デスク会議は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる。現在は、岡山中央病院が連携窓口となり運用している。

合同連携デスク利用: 令和 3 年度4件

3) 津高一宮ネット・みつネットへの参加 Web での参加(1回/月 第4金曜日)

4) がん相談支援センター(専任): 実務者会議(3回/年 岡山大学主催)

5) 2020 年度 もも脳ネット: 多職種連携強化のための研修会開催 (2021 年 1 月 24 日)

6) 開放病床運営委員会(2回/年)・地域医療支援委員会(4回/年)の開催

7) 令和 2 年度岡山県小児訪問看護拡充事業への参画

8) 日本医療マネジメント学会岡山県支部事務局業務

事務局変更のため川崎総合医療センターへ引き継ぎを行った。

5. 研修会

1) 多職種事例検討会 (12月10日)

テーマ:退院支援事例を振り返り、地域で生活する対象のあり方を考える。

参加者:112名(院内99名、院外:WEB参加13名)

●研究業績等

1. 講演・講義

1) 小児訪問看護研修会

医療的ケア児の在宅療養を支える看護職の役割と看護実践、看護連携実践報告

10月22日 藤本 真理子 Ns

2. 各種協議会

1) 第1回医療的ケア児支援体制検討会議

9月29日 森重 潤子 MSW、藤本 真理子 Ns

2) 日本小児総合医療施設協議会「入退院調整・地域連携ネットワーク会議」

2月25日 藤本 真理子

3) 津高一宮ネット コア会議 毎月第4金曜日 溝内 育子 Ns、神崎 早苗 MSW

3. 研修

1) 医療的ケア児コーディネーター支援者養成研修

11月3～4日 藤本 真理子 Ns

2) 医療的ケア児在宅医療を支える看護職の役割と看護実践

10月6日 藤本 真理子 Ns

3) 令和3年度中国四国グループ内新採用職員研修

4月16日、5月26日 田中 詩菜 MSW

4) 令和3年度中国四国グループ内入退院支援に関する実践能力向上研修

9月14～17日、9月27～12月14日、1月7日 成瀬 藍 Ns

5) 令和3年度中国四国グループ内医療社会事業専門員等研修

2月25日 村上 朋子 MSW

6) 令和3年度 災害医療従事者研修及び初動医療班・医療班研修

2月3日～4日 宮内 京佐 係

7) 2021年度 第3回岡山県がん相談支援センター相談員研修

3月27日 高瀬 陽子 MSW

8) 岡山市医療的ケア児研修会

12月11日、1月16日 藤本 真理子 Ns

9) 2021年度がん相談支援センター

相談員基礎研修(1)(2) 成瀬 藍 Ns、田中 詩菜 MSW

相談員研修(3) 村上 朋子 MSW

相談員継続研修 認定更新コース 高瀬 陽子 MSW、神崎 早苗 MSW

10) 岡山県緩和ケア研修会

10月17日 高瀬 陽子 MSW、森重 潤子 MSW、村上 朋子 MSW、吉田 恵美 MSW

11) 岡山県ピアサポータースキルアップ研修会

9月23日 高瀬 陽子 MSW

● 活動目的

1. 当院の登録は二次救急であるが、現実には一次から三次救急まで対応している。それらに対応する院内救急部門(救急科)の診療を円滑に運営し、救急医療の質の向上を図ること。
2. 院内救急の充実を図ること
3. 岡山県災害拠点病院指定に伴う災害時の院内外医療体制の整備を図ること。

● 活動状況

主に以下の活動を行っている。

1. 救急運営対策室会議開催(不定期月 第4金曜日 2020年度は5回開催)
2. 年末年始、ゴールデンウィーク等の連休における救急外来の運営対策
3. 院内急変患者の診療状況の分析とそれに基づく院内救急の改善の検討
4. 救急車の物品点検(毎月第3金曜日)
5. 初期研修医対象院内 ICLS コース等の急変対応コースの開催・誘致
6. 対外的活動・定例会議出席
 - 1) 岡山県南東部メディカルコントロール協議会
 - 2) 岡山市救急業務連絡協議会
 - 3) 岡山県救急医療情報システム運営委員会
7. 救急救命士実習受け入れ(岡山市消防局1名)
8. 職員を対象とした心肺蘇生講習。とくに医師看護師以外への PUSH 講習会開催
9. その他、多角的視点からの院内救急改善の検討(COVID-19 関係は COVID-19 外来対策チームが担当)

2021年度の救急関連統計: 救急車受入れ台数は、昨年度比 196 台増の、3074 台で、昨年度比 196 台増であった。また、救急患者延べ数は 14434 名と、前年度比 2568 名増、救急紹介患者数は 2754 名(28 名増)と軒並み増加した。一方緊急入院患者数は 3810 名(1291 名減)減少した。救急車応需率は 78.2%と前年度の 87.5%から低下した。コロナ禍における救急診療が日常となり、救急外来の運用がスムーズとなったことが患者数や救急受入れの増加につながったと考える。一方で、入院を必要としない。COVID-19 疑似症などの比較的軽症の患者数増加が救急患者数増加や職員や患者の COVID-19 罹患にともなう病棟閉鎖などが入院患者、応需率の減少につながったと考える。

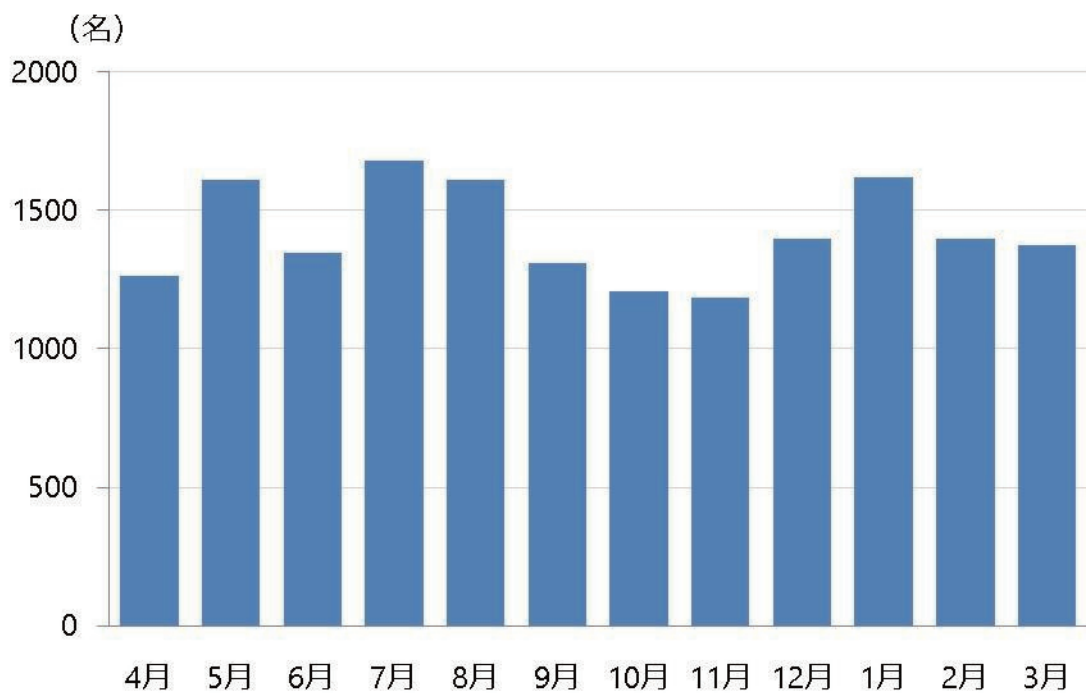
室における協議事項・実績【心肺蘇生講習会の開催】例年行っている初期研修医(1回 16名)および放射線科スタッフ(2回 28名)対象の講習のほか、病院機能評価受審において、職員に対する心肺蘇生訓練を行っていることが認定条件として挙げられていることから、10月から1月にかけて主に一般職員に対する心肺蘇生講習(PUSH講習会)を行った(22回 255名)。

新型コロナウイルス感染症対応については院長直轄の COVID-19 外来対応チームで議論、決定されており、その内容について当室に報告があり、意見を提示した。

救急受診患者数・救急車搬入台数・ 緊急入院患者数



2021年度 月別救急患者数



● 活動理念：～その人らしく生きるための支援を目指す～

1. 患者、家族が一日一日を有意義に過ごせるための時間と空間の提供
2. 多職種により、家族を含めた包括的なチームケアを提供
3. QOL の維持向上が図れるよう力を注ぐ
4. あたりまえの医療・ケアとして普及するよう、医療者の教育・啓発活動に取り組む
5. 緩和医療における地域連携の構築に努め、どのような場所でも緩和ケアが適切に提供される環境を整える

● 活動状況

1. 活動内容

- ・症状マネジメントのコンサルテーション
- ・院内オピオイド使用状況の把握と助言、介入
- ・PCT 症例カンファレンス
- ・緩和ケア勉強会の企画
- ・緩和ケアの啓発活動
- ・帰宅あるいは緩和ケア病棟転院のリクルート

2. 2020 年度緩和ケアチーム活動実績

オピオイド回診

年度	2020	2021	
回診回数	49	46	回
のべカンファレンス対象者数	1,169	997	人
1 回の回診におけるカンファレンス対象者数	23.9	21.7	人
1 回のカンファレンスにおける参加人数	20.2	18.6	人
1 回のカンファレンスにおける参加業種数	5-8	5-7	
1 回のカンファレンスにおける参加診療科数	2-4	2-4	科

臓器別	のべカンファレンス対象者数		1 回の回診におけるカンファレンス対象者数	
	2020	2021	2020	2021
呼吸器がん	352	228	7.2	5.0
消化器癌がん	222	216	4.5	4.7
血液がん	241	260	4.9	5.7
頭頸部がん	45	43	0.9	0.9
泌尿器がん	70	70	1.4	1.5
乳腺・甲状腺がん	22	32	0.4	0.7
婦人科がん	82	28	1.7	0.6
原発不明・その他	22	14	0.4	0.3
非がん	113	106	2.3	2.3

緩和ケア回診

年度	2020	2021	
回診対象者数	207	196	人
のべ回診回数	2,632	2,396	回
回診対象者 1 人におけるフォローアップ回数	12.7	12.2	回
緩和ケア診療加算 算定回数	1,431	1,378	回

3. 2021 年度緩和ケア対策室主催の研修会

年	月日	研修会名	題名・内容
2021	10/17	岡山県緩和ケア研修会	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会

4. がんサロン(ほのぼのサロン)

2021 年度は中止

● 研究業績

講演

- 1) 宮武 和代
がん治療に関連する痛み
第 2 回 疼痛治療の明日を考える 2021 年 9 月 1 日
- 2) 宮武 和代
がん疼痛の緩和ケア
北ブロック ファーマシストふれあいセミナー 2022 年 3 月 24 日

学会

- 1) 宮武 和代
緩和ケアチーム介入患者の評価管理システムの作成と情報共有について
第 26 回 日本緩和医療学会学術大会 2021 年 6 月 18 日

● 活動目的

1. 栄養障害の状態にある患者や、栄養管理をしなければ栄養障害の状態になることが見込まれる患者に対し、患者の生活の質の向上、原疾患の治癒促進及び感染症などの合併症予防などを図る。
※所定の研修を修了した医師、NST 専任看護師、薬剤師、管理栄養士が NST ラウンドすることで栄養サポート加算 200 点を得ることができる。
2. 入院患者に対する栄養リスクアセスメントを行い、低栄養患者の栄養改善および治療に、多職種編成チームで取り組む。
3. 職員に対して、栄養に関する意識向上を図るべく啓発活動を行う。

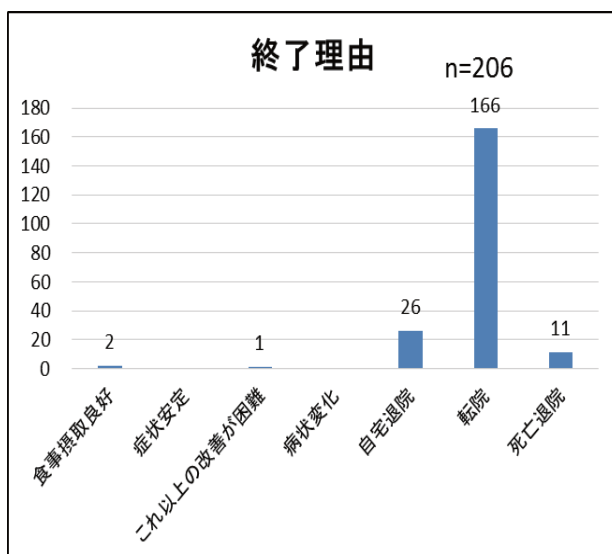
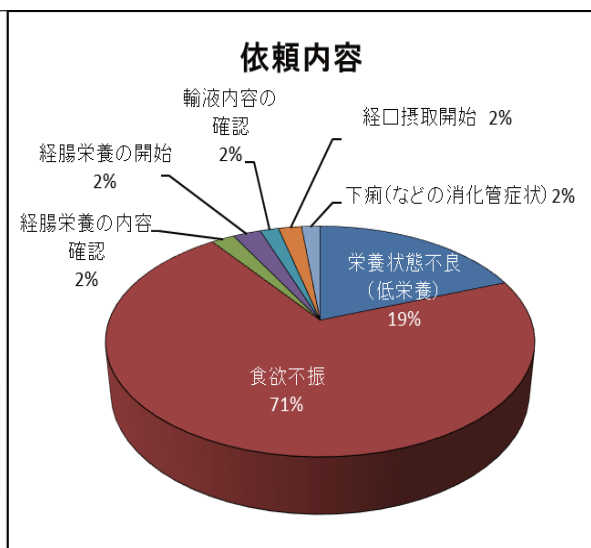
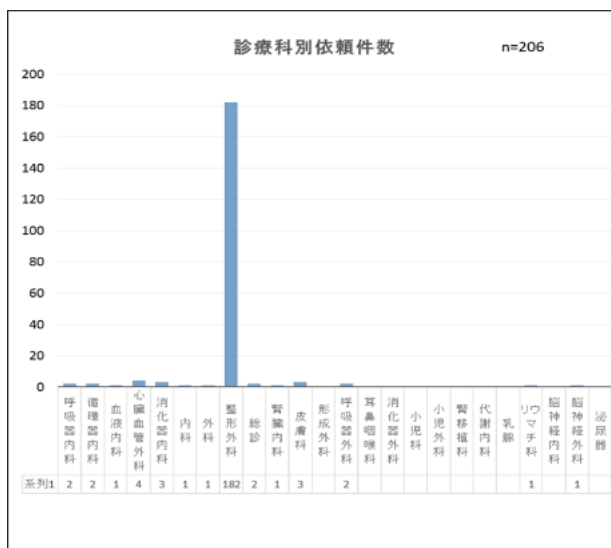
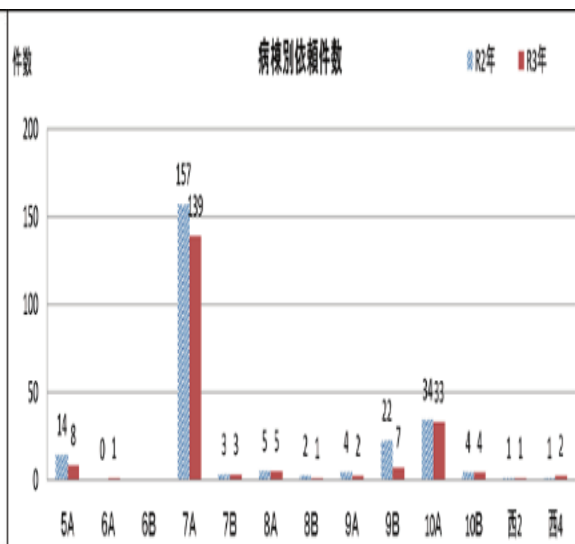
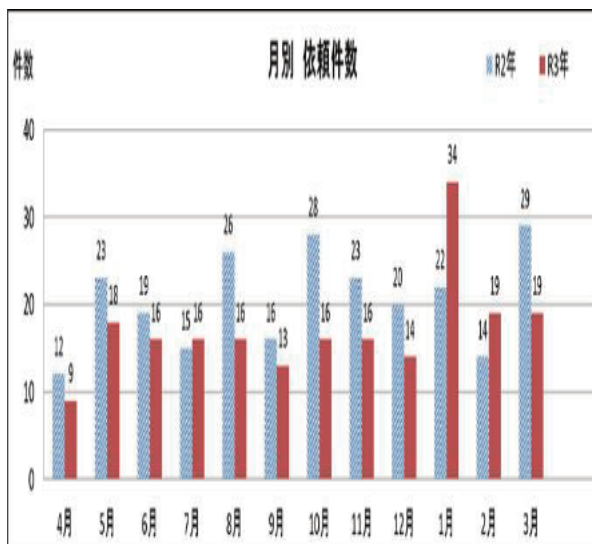
● 活動状況

1. 全入院患者に対して栄養リスクアセスメントを行い、低栄養患者に関するコンサルト業務を行っている。
2. 毎週月曜日に NST カンファレンス、毎週金曜日に NST カンファレンス・回診を行い、主治医へ提言を行っている。
3. 奇数月の第 4 金曜日に NST 拡大ミーティングを行い、各病棟リンクナースとともに栄養管理に関する勉強会を行っている。
4. 2021 年 10 月より、経腸栄養用のコネクタを「ISO 80369」製品に切り替えた。
5. 2021 年 10 月より、全入院患者に「摂食・嚥下障害質問票」にてスクリーニングを行い、嚥下障害「あり」の判定がでた患者を対象に、毎週水曜日にお食事ラウンドを行っている。ラウンドは、NST リンクナース、言語聴覚士、管理栄養士が行い、摂食・嚥下状態の確認、食形態や栄養状態を評価し、必要時は NST が継続して介入するなど低栄養を予防している。

(2021 年度活動実績)

新規依頼件数:206 件、回診回数:50 回、延べ患者数:509 人、加算人数:471 人

月	回診数(回)	延べ患者数(人)	加算人数(人)	月	回診数(回)	延べ患者数(人)	加算人数(人)
4 月	5	63	37	10 月	5	56	55
5 月	4	38	38	11 月	4	37	29
6 月	4	43	43	12 月	4	39	38
7 月	5	35	35	1 月	4	43	43
8 月	4	34	32	2 月	3	43	43
9 月	4	30	30	3 月	4	48	48



(認定)

日本臨床栄養代謝学会 NST稼働認定施設
日本栄養療法推進協議会 NST稼働認定施設

● 活動目的

院内各科で日常的に使用される医療機器を中央化し、保守・点検管理、効率の良い貸し出しを目的としています。

● 活動状況

医療機器管理室は、臨床工学技士 11 名(育休 1 名)で業務を行っています。業務内容は、臨床業務と機器管理業務があり、臨床業務としては、人工心肺・血液浄化・術中自己血回収・ペースメーカーなどがあります。最近の流れとしては、人工心肺業務、アブレーション業務が増加しております。機器管理業務は、人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・低圧持続吸引器・ベッドサイドモニター、フロートロン等の保守・点検・修理を行っています。医療機器管理台数は 2,000 台以上となっています。

臨床業務件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人工心肺	7	9	7	9	6	5	7	10	9	7	2	7	85
PCPS	3	0	2	1	1	1	1	0	0	1	0	0	10
PCPS回路交換	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
IABP	3	2	3	0	0	2	0	0	0	1	0	0	11
術中自己血回収 心外	9	11	8	10	8	7	10	15	10	7	6	8	109
術中自己血回収 整形	12	13	10	8	10	17	7	13	12	9	11	11	133
CHDF	20	28	10	8	7	5	18	29	13	22	19	24	203
PE	0	7	0	0	0	0	0	5	0	1	1	0	14
Se-PE	0	7	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	9
DFPP	0	0	1	0	1	4	0	7	0	4	1	0	18
LDL吸着	0	0	0	0	0	0	5	0	5	0	0	0	10
免疫吸着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
エンドトキシン吸着	3	1	0	1	1	1	0	0	2	0	0	0	9
腹水濾過濃縮	1	1	3	0	1	3	1	0	0	0	0	0	10
DHP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
末梢血幹細胞採取	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3	3	10
GCAP	6	1	0	0	7	7	1	4	11	0	0	0	37
PM/ICDチェック	36	23	32	65	60	78	67	55	61	39	27	60	603
遠隔モニタリング	264	292	281	272	294	287	294	273	285	296	260	301	3,399
PM植込み/交換	3	8	2	5	7	7	9	5	5	1	5	6	63
CRTP植込み/交換	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
ICD植込み/交換	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	5
CRTD植込み/交換	1	1	1	0	1	0	0	1	0	0	2	1	8
SICD植込み	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
ICM植込み	1	0	2	0	1	0	0	2	1	0	2	1	10
アブレーション	7	6	9	12	8	12	9	8	9	12	7	14	113
EPS	0	1	1	0	0	2	2	2	0	0	0	0	8
心臓カテーテル(SG)	0	0	2	2	1	1	1	2	0	2	0	1	12
USU	1	5	4	3	4	2	1	2	3	4	1	1	31
ロータブレーター	2	0	0	0	0	2	0	1	1	0	2	1	9
ダイヤモンドバック	1	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	7
ラジオ波焼灼	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
MEP	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2	5
SNMチェック	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
合計	385	420	379	397	421	445	437	438	430	411	354	442	4,959

医療機器管理件数

医療機器貸出件数 8,002件

医療機器返却件数 8,153件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人工呼吸器	31	31	42	30	36	37	42	29	31	33	20	29	391
ネーザルハイフロー	7	5	8	4	5	3	7	6	7	7	9	7	75
輸液ポンプ	668	573	758	693	719	809	757	732	730	797	663	458	8,357
シリンジポンプ	97	54	154	161	158	152	134	135	113	158	140	174	1,630
低圧持続吸引器	39	43	46	41	32	36	41	51	62	40	39	49	519
ベッドサイドモニター	25	11	24	13	5	15	17	20	18	17	13	14	192
モニター送信機	3	1	2	0	1	2	0	0	1	1	2	2	15
パルスオキシメーター	0	0	3	1	1	1	0	1	1	0	1	1	10
DVT装置	57	68	70	64	63	77	74	73	95	60	61	87	849
電子血圧計	6	2	3	0	1	2	1	0	0	0	1	1	17
透析室透析装置	14	10	12	6	7	7	8	8	7	10	3	7	99
血液浄化装置	6	6	0	6	6	6	6	6	8	6	0	6	62
除細動器	17	17	17	17	17	16	12	18	0	15	0	12	158
IABP	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
人工心肺	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
PCPS	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	37
保育器	9	18	15	24	25	20	22	31	28	21	21	10	244
AED	28	28	28	28	28	28	28	28	0	28	0	28	280
自動血圧計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
経腸栄養ポンプ	5	3	6	3	3	8	3	2	2	8	4	4	51
PCAポンプ	2	1	5	3	4	4	4	6	3	4	4	5	45
麻酔器	0	2	0	1	0	2	0	5	0	2	0	0	12
セントラルモニター	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	1	0	7
ネブライザー	1	3	3	1	1	1	2	1	4	0	3	0	20
合計	1,023	883	1,203	1,103	1,119	1,234	1,166	1,161	1,118	1,215	992	902	13,119

教育・研修

4月9日	除細動器勉強会	8月3日	心カテ勉強会
5月7日	ポリグラフ勉強会	8月6日	ECMO勉強会
5月11日	漏れ電流計勉強会	8月16日	アブレーション勉強会
5月12日	ポリグラフ勉強会	11月4日	プレジジョンフロー勉強会
5月20日	輸液ポンプ勉強会	2月28日	人工心肺勉強会
6月25日	人工呼吸器勉強会		

● 研究実績

講演

- 1) 藤本 典一
当院における遠隔モニタリングの運用について
玉島地区医療連携カンファレンス 2021年9月16日

学会発表

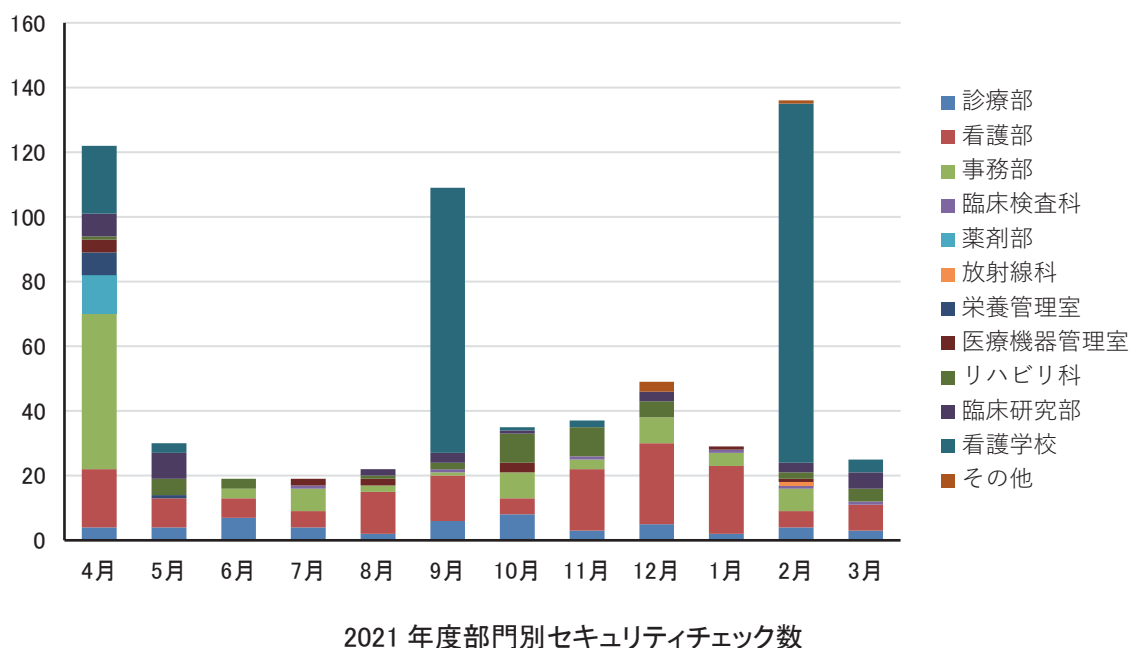
- 1) 大野 開成
電極カテーテルの種類により得られる電位が明瞭に異なった心室性不整脈の2例
第67回日本不整脈心電学会学術大会(web) 2021年7月2日
- 2) 大野 開成
CARTO VIZIGO シースの使用経験
カテーテルアブレーション関連秋季大会 2021(web) 2021年9月24日
- 3) 大野 開成
可搬型/車載型衛星通信システムの導入を経験して～原子力災害拠点病院として出発～
第75回国立病院総合医学会(web) 2021年10月23日
- 4) 藤本 典一
心内電位での心房電位と心房 Marker に時相のずれを認めた一例
第14回植込みデバイス関連冬季大会 2022年2月11日

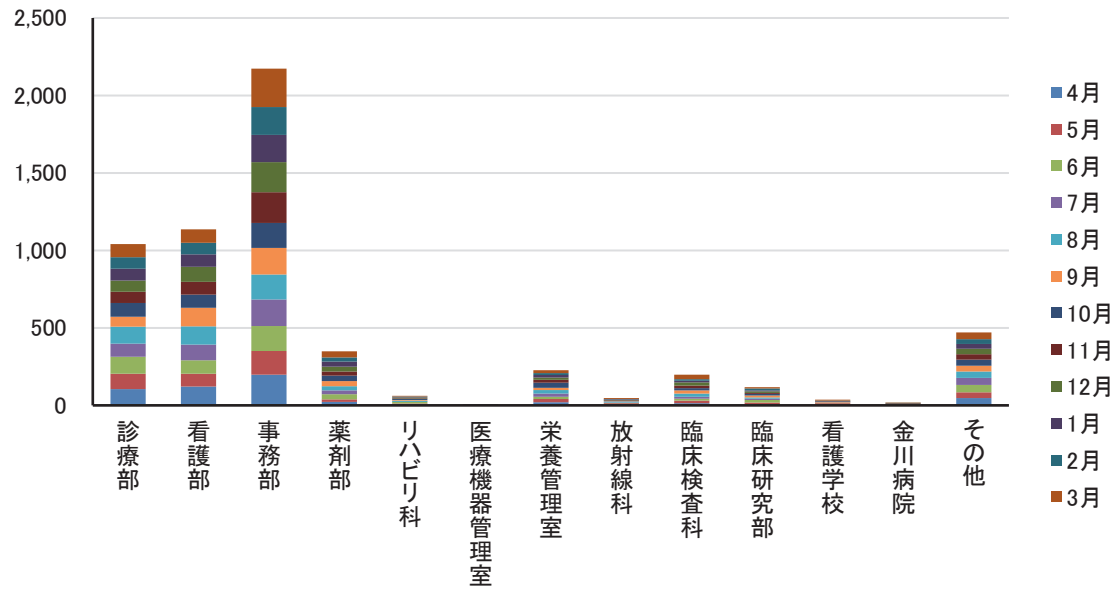
●活動目的

1. 病院情報システムの管理・システム開発に関する事項の適正かつ迅速な運営を目的とする
2. 電子カルテの安定的運用、問題点の解決を行う

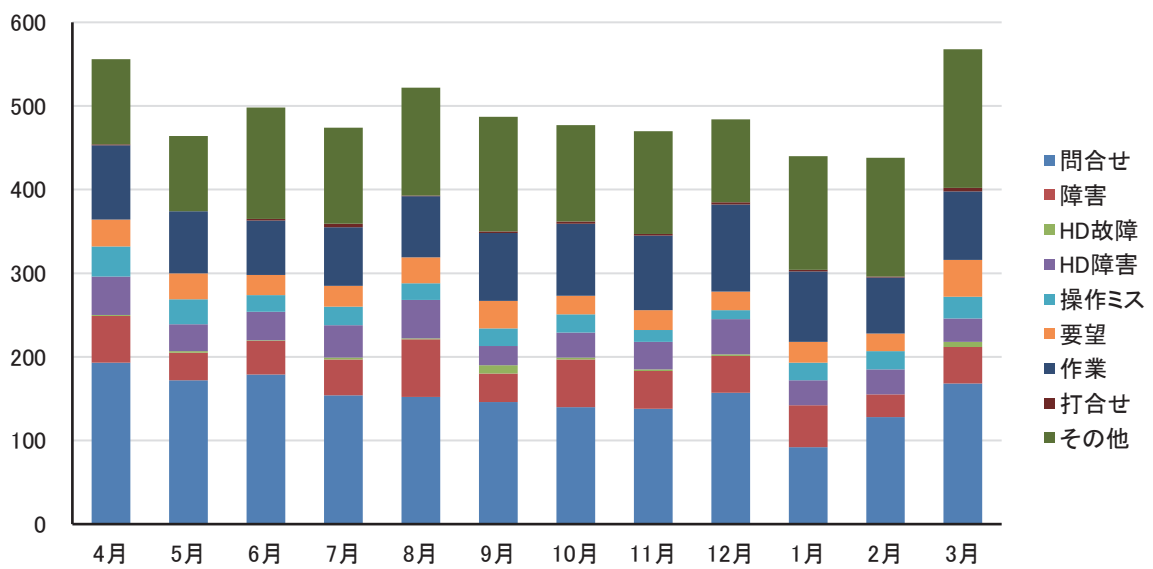
●活動状況

1. 定例会議(病院情報システム委員会)を月 1 回開催(年 11 回)
2. SSI 電子カルテ・コアメンバーによる会議を毎月実施
3. SSI 電子カルテ操作研修を実施
4. サーバー定期再起動実施(2 ヶ月に 1 回など)
5. 院内情報発信
新採用者・医療クーク研修などの電子診療録の取扱いについて講義実施
情報セキュリティー対策に関わる情報発信
6. システム障害発生時の対応
7. ウイルスチェックと発見履歴管理
8. CoMedix での申請・承認対応
9. 一般常用回路の電気設備保安点検における対応
10. Web 会議の環境整備
11. 次期病院情報システムデモンストレーションにおける準備
12. ウイルスセキュリティソフトのアップデート対応





2021 年度月別部門対応件数



2021 年度月別対応区分件数

● 活動目的

当院における図書の有効利用、職員への必要な医学情報の提供を行い、医療技術の維持向上を図ることを目的とする。

【活動内容】

1. 当センター図書室における資料の管理
2. 依頼に応じて職員へ複写文献を提供
3. 必要かつ適切な資料・ツール購入の検討
4. 適切かつ最新の医療情報提供：【COVID-19】に係るオープンアクセス情報の発信等

● 活動状況

図書室運営室の活動

- ・定期購読資料・電子ツールの選定
- ・図書室運営室会議の開催(年1～2回)など

図書室での活動

1. 室内資料と設備、データベース・電子ツールの閲覧設定・管理
2. 書籍類の貸出返却業務
3. 職員への文献提供、調査・外部依頼
4. 他院からの文献複写受付・発送
5. 当院・医療関連新聞記事の保存・掲示
6. e-learning 環境の導入計画に沿った室内資料整備

外部機関への文献複写申込み件数(前年度比較) ①

科	R3 年度	R2 年度	H31/R1 年度	科	R3 年度	R2 年度	H31/R1 年度
スーパーローテイト	20	-	34	小児科	31	16	32
血液内科	-	-	-	新生児科	4	3	10
総合診療科	-	-	1	外科	8	10	18
腎臓内科	34	70	135	整形外科	2	97	7
糖尿病・代謝内科	-	8	9	形成外科	2	4	3
神経内科	-	-	6	脳神経外科	2	-	-
呼吸器内科	1	-	2	呼吸器外科	4	-	2
消化器内科	96	43	95	心臓血管外科	10	2	7
循環器内科	8	-	1	小児外科	10	13	9

令和3/2021年度の実績
貸出(書籍類)

スーパーローテイト	16
看護部	15
小児科	7
総合診療科	6
感染症内科	2
心臓血管外科	2
その他	12
合計	60冊



外部機関への文献複写申込み件数(前年度比較) ②

科	R3 年度	R2 年度	H31/R1 年度	科	R3 年度	R2 年度	H31/R1 年度
皮膚科	4	4	3	救急科	-	-	-
泌尿器科	5	5	12	感染症内科	-	-	-
産婦人科	28	34	42	薬剤部	1	4	-
眼科	28	32	7	診療部	-	5	-
耳鼻咽喉科	-	-	-	手術室	-	-	7
放射線科	6	2	19	看護部	16	3	54
麻酔科	-	-	-	看護学校	-	-	-
臨床検査科	1	-	1	金川病院	-	1	-
リハビリテーション科	-	-	2	合計	312件	360	518

所蔵資料等 契約・受入状況

- 洋雑誌の電子化
- E-Resource の院内全域閲覧を継続
- [O-Discovery Link Resolver] 継続による PubMed / Library LinkOut 対応
- [医中誌Web] アクセス無制限プランの継続
- オンライン蔵書検索URLの院内公開
- 利用率の低いジャーナルを購読中止
- 雑誌75冊の寄贈受入
- 書籍5冊(+ CDR1点)の寄贈受入



その他

- 他院からの文献複写申込受付：11件

うち「岡山医療センター年報」複写依頼受付：8件

- 医療関係新聞記事の保存、掲示



医療関係の新聞記事は、一定期間、医局等に掲示し、院内文書ファイルに保存しています。

また、当院の関連記事の保存には、別ファイルを作成しています。

当日の山陽・朝日・読売新聞、週刊医学会新聞の閲覧も可能です。



令和4年度の目標

- 上記図書室活動の継続、充実
- 蔵書点検、書架整理（所蔵データ修正）
- 図書室へのニーズの掘り起こし

皆さまの必要な知識、情報を適切に提供すべく運営していきます。
皆さまのご意見をお聞かせ下さい。



●活動目的

国立病院機構岡山医療センターにおける医療広報（ホームページと広報誌「ザ・ジャーナル」）について具体的事項の立案計画を行い、適正かつ迅速に運営するため、活動している。

医療広報活動を通して

- ① 病院のことを知ってもらい、患者さんや紹介医への信頼につなげる
- ② 職員の帰属意識を高める
- ③ 職員の募集

などを期待している。

●活動状況

室会議においてはメンバーから担当領域の広報に関する報告を受け、決定を行っている。また、企画を立案し、それを実行するための行動を確認している。

患者さんのために真剣に仕事に取り組んでいる姿を見てもらい、当院の理念である「今、あなたに、信頼される病院」であろうとしているところを読者に感じてもらえる内容となるよう意識し作成に取り組んでいる。

医療広報推進室会議の開催

第1または2週、木曜日、16:00～（30分～1時間程度）

（必要な場合は随時、臨時室会議を招集・開催）

●活動実績

1. ホームページについて

I 記事の改訂、新着情報の掲載を随時行っており、常に最新の情報を閲覧している。

【作業過程】

1. 広報のメンバーから各分野の責任者を決め、責任者は会議までに内容のチェックを行い、古い記事や修正などの報告、次の会議で結果報告を行う。但し、至急掲載については、HP 担当者へ直接依頼する。
2. 診療科の更新では、各医療クラークを通して連絡確認をし、提出期限を厳守とした協力体制を行う。
3. 業者とのやり取りでは、依頼からリリース完了までの流れを、google のスプレッドシートを利用し、双方の連絡に漏れがないようにする。

II 新規ホームページプロジェクトチームを結成した。スマホ対応など最近の需要に沿った改訂を行うべく準備を進めている。



2. 広報誌ザ・ジャーナルについて

- ・年に4回発行している。
- ・室会議にて、特集記事、定期掲載記事などの確認を行い、室員内で担当責任者を分担している。その後、タイムスケジュール表を作成し、担当責任者が記者へ依頼。原稿を収集し、業者(中野コロタイプ)と協力しレイアウトを調整する。室員及び記者への確認、当院幹部へ最終確認の上、本誌を発行している。
- ・本誌で掲載された診療科紹介の記事はホームページのトピックスへ掲載している。



2021 年 6 月発行



2021 年 9 月発行



2021 年 12 月発行



2022 年 3 月発行

環境整備室

室長 太田 徹哉(統括診療部長)

● 活動目的

環境整備室は、国立病院機構岡山医療センターの院内・敷地内のあらゆる環境の整備を推進することを目的に2007年に設立された。2019年度より活動休止していたが、院内の環境を職種横断的に改善していくために、2020年中期より再度活動することになった。

【これまでの活動】

- ① 院内環境の継続的な点検及び把握
- ② 院内環境の問題点及び改善方策の検討ならびに院内環境整備の企画立案
- ③ 上記項目にかかる院長への報告
- ④ 病院環境に関する院長の個別指示事項の実施
- ⑤ 上記項目に付随する事務処理
- ⑥ その他院内環境に関係する病院全体としての企画や行事の協力・参加等

● 構成メンバー(令和3年度)

	氏名	職名		氏名	職名
室長	太田 徹哉	統括診療部長	副室長	山内 清美	経営企画室長
室員	中本 珠世	副看護部長	室員	香川 亮子	看護師長(5B)
室員	小山 仁一	看護師長(西2)	室員	岩田 千恵	看護師長(8A)
室員	岡本 美恵子	看護師長(外来)	室員	大倉 裕祐	薬剤部長
室員	井澤 俊二	看護師長(外来)	室員	山本 宏	薬剤部長
室員	黒田 和彦	臨床検査技師長	室員	近藤 晃	診療放射線技師長
室員	岡本 理恵	栄養管理室長	室員	松尾 剛	理学療法士長
室員	吉田 磨	臨床工学技士長	室員	阿座上 優大	庶務係
室員	向井 晴樹	契約係			

● 令和3年度の活動

【決定事項】

1) イベント関連に関しては、COVID-19感染拡大に伴い令和2年度と同様に基本的に中止とした

- 1 病院フェスタ・・・中止
- 2 病院忘年会・・・中止

新人歓迎の代替イベントも、年度内に開催困難と判断し、次年度へ繰越

2) 院内環境関連

- 1 中庭公園化計画の実施(さにーちゃんガーデンの造設)
 - ・ 7月16日: SALA PLANNING、中国デザイン学校関係者と、中庭アスファルトのペンキ塗りに関してミーティング

10月22日

業者及び当院ボランティアスタッフにて、中庭アスファルトのペンキ塗り。
以後、中国デザイン学校学生により、アスファルトへ描画。



11月26日
シンボルツリーを含む
植栽搬入



11月30日

小児科スタッフ発案により、中庭に設置するクリスマスツリーへの寄付依頼。その後、オーナメントによるツリーの装飾と電飾を設置。





2 あいさつ運動

活気ある職場、元気の出る職場づくりのため、気持ちの良いあいさつを定着させる目的にて、看護部室員の提案にて開始。

挨拶運動活動時間 A.M8:10～8:40、場所：1F 職員エレベーターホール

第1回目				
11月15日(月)	11月16日(火)	11月17日(水)	11月18日(木)	11月19日(金)
片岡企画課長	山内経営企画室長	田中管理課長	角南臨床研究部長	柴山副院長
大倉薬剤部長	近藤放射線技師長	岡本栄養管理室長	黒田臨床検査技師長	秋本看護部長
中本副看護部長	太田(康)副統括診療部長	香川看護師長	香川看護師長	河本看護師長
小山看護師長	岡本看護師長	上原看護師長	岩田看護師長	三谷看護師長
11月22日(月)	11月23日(火)祝日	11月24日(水)	11月25日(木)	11月26日(金)
大谷事務部長		久保院長	松原副院長	太田(康)副統括診療部長
宮部副看護部長		松尾リハビリ科士長	吉田臨床工学技士長	吉田副看護部長
岩田看護師長		別所看護師長	向井看護師長	常久看護師長
上本看護師長		大東看護師長	神屋看護師長	中原看護師長
第2回目				
1月10日(月)祝日	1月11日(火)	1月12日(水)	1月13日(木)	1月14日(金)
	山内経営企画室長	柴山副院長	角南臨床研究部長	大倉薬剤部長
	近藤放射線技師長	田中管理課長	黒田臨床検査技師長	岡本栄養管理室長
	中本副看護部長	香川看護師長	川崎教育担当看護師長	秋本看護部長
	岡本看護師長	上原看護師長	岩田看護師長	小山看護師長
1月17日(月)	1月18日(火)	1月19日(水)	1月20日(木)	1月21日(金)
大谷事務部長	片岡企画課長	久保院長	松原副院長	太田(康)副統括診療部長
宮部副看護部長	太田(徹)統括診療部長	松尾リハビリ科士長	吉田臨床工学技士長	吉田副看護部長
河本看護師長	小林医療安全係長	別所看護師長	向井看護師長	常久看護師長
上本看護師長	中原看護師長	大東看護師長	神屋看護師長	甲斐看護師長
第3回目				
3月7日(月)	3月8日(火)	3月9日(水)	3月10日(木)	3月11日(金)
大谷事務部長	山内経営企画室長	柴山副院長	角南臨床研究部長	大倉薬剤部長
宮部副看護部長	黒田臨床検査技師長	田中管理課長	秋本看護部長	近藤放射線技師長
岩田看護師長	中原看護師長	香川看護師長	川崎教育担当看護師長	濱田看護師長
向井看護師長	岡本看護師長	上原看護師長	上本看護師長	別所看護師長
3月14日(月)	3月15日(火)	3月16日(水)	3月17日(木)	3月18日(金)
片岡企画課長	太田(徹)統括診療部長	久保院長	松原副院長	太田(康)副統括診療部長
岡本栄養管理室長	吉田副看護部長	吉田臨床工学技士長	松尾リハビリ科士長	香川看護師長
河本看護師長	小林医療安全係長	神屋看護師長	中本副看護部長	三谷看護師長
小山看護師長	駒形看護師長	大東看護師長	常久看護師長	甲斐看護師長

患者サービス推進室

室長 太田徹哉(統括診療部長)

● 活動目的

患者サービス推進室は 2007 年に患者サービスの一環として設立されました。活動目的は当院の患者サービスの現状の把握、問題点・改善方策の検討です。具体的には、

- ① “ご意見箱”を各病棟のダイニングルーム、外来総合案内に設置し、定期的に室員が回収
- ② “ご意見箱”に記載されている「皆様の声」の内容を吟味し、緊急度を判断しながら(至急対応の要するものはその都度各部署へ対応依頼)、毎月第 3 もしくは第 4 木曜日に開催の「患者サービス向上推進対策会議」で内容を検討
- ③ 病院としての対応が必要なものは“幹部会議”に患者の要望と検討内容を報告・提出の 3 点です。

また、入院患者さんにアンケート調査(記名/無記名は不問)を実施し、患者さんからの“生の声”に接しながら、指摘された問題点等を検討し、対策等を立案しています。

● 構成メンバー(令和 3 年度)

	氏名	職名		氏名	職名
室長	太田 徹哉	統括診療部長	副室長	宮部 恵子	副看護部長
副室長	和田 吉弘	事務専門職	室員	齊藤 崇	感染症内科医長
室員	古城 真秀子	小児科医長	室員	濱田 のぞみ	外来師長
室員	溝内 育子	地域医療連携室師長	室員	竹山 知志	副薬剤部長
室員	須賀 貴仁	副診療放射線技師長	室員	小田 十姉美	副臨床検査技師長
室員	阿部 直美	言語聴覚士	室員	宮内 京佐	地域医療連携室係長
室員	陶守 優	庶務係長	室員	岡村 修平	契約係長
室員	和田 紘加	医事係			

● 活動内容の詳細



“ご意見箱”を各外来ブースや病棟に設置



“アンケート回収ボックス”は病棟に設置



入院患者さまへのアンケート

みなさまのご意見をもとに、当院のサービスを改善いたします。
ぜひ、アンケートにご協力下さい。

○ 主に職員の方に対してお聞きいたします。退院時に看護課または２階診療案内の意見箱にご投入下さい。○

1. アンケートにご回答いただく方についてお答えください。

年 齢	性	患者さまとの関係	患者さまご本人	ご 親 族	そ の 他
			1	2	3

2. 今回患者さまがご入院された病棟はどちらですか。

5A・5B・6A・6B・7A・7B・8A・8B・9A・9B・10A・10B・西2・西4・西9

3. 各職員の対応はどうでしたか。

	良 い	ふ つ う	悪 い	わからない
医 師	1	2	3	4
看護 師	1	2	3	4
検査 技 師	1	2	3	4
放射線技師	1	2	3	4
薬剤 師	1	2	3	4
理学療法士	1	2	3	4
栄養 士	1	2	3	4
事務 職員	1	2	3	4
病棟 助手	1	2	3	4
指 導 除	1	2	3	4

4. 今後の入院治療は、ご満足いただけましたでしょうか。

おおいに満足	満 足	満足できなかった
1	2	3

ご協力ありがとうございました。



● 活動状況

毎月第2水曜日の午後4時から、事前に回収した「皆様の声」について、メンバー全員で内容を分析し、改善に向けて検討を行っています(室員は19名)。

- ① 病棟のものは病棟師長、外来のものは医事専門職が回収。回収された投書用紙は、副看護部長室に一旦集められ、副看護部長が内容を適宜検討。
- ② 急ぐ案件については、対応部署の責任者にその都度連絡。対応部署の判断が難しい時は、副院長に連絡し対応を検討。
- ③ 急がない案件については、毎月の定例会議(第 2 水曜日の午後 4 時より)で内容等を検討。
- ④ “ご意見箱”のご意見への返事は、必要に応じて専門職を中心に作成し、2F の専用掲示板に掲示。更に、“ご意見箱”で述べられた我々職員に対する問題点・注意点は、適宜院内情報用 Web に載せ、職員の接遇の改善を企図。
- ⑤ 入院患者アンケートを実施。指摘された問題点を検討し対策を立案。
- ⑥ その他、患者サービスにつながる事案を逐次対応し、必要に応じて院内ラウンドや院外の視察等の実施。

● 調査結果

【令和３年度ご意見箱に寄せられた代表的なご意見】

①面会制限に関するご意見

・ ・ ・ お世話になっております。

院内感染対策はとても大切ですが、出来れば 5 分でも簡易面会が出来ればなどと希望致します。家族の顔を見るだけでも安心できます。

②診療時における待ち時間に関するご意見

- ・本日 8 時 30 分から MRI 予約となっていますが、受付が 8 時 30 分では検査時間と同じで予約時間より遅れます。受付時間と検査時間が同じなのはちょっとおかしいのでは。

・・・3Fの受付の待ち時間が長すぎる。もう少し早くできないですか。

③駐車場に関するご意見

・ ・ ・ 入院患者の家族は駐車料金をかからないようにして欲しい。

そうでなくても大変なのだから。

- ・身障者用の駐車場を増やしてほしい。

【対応について】

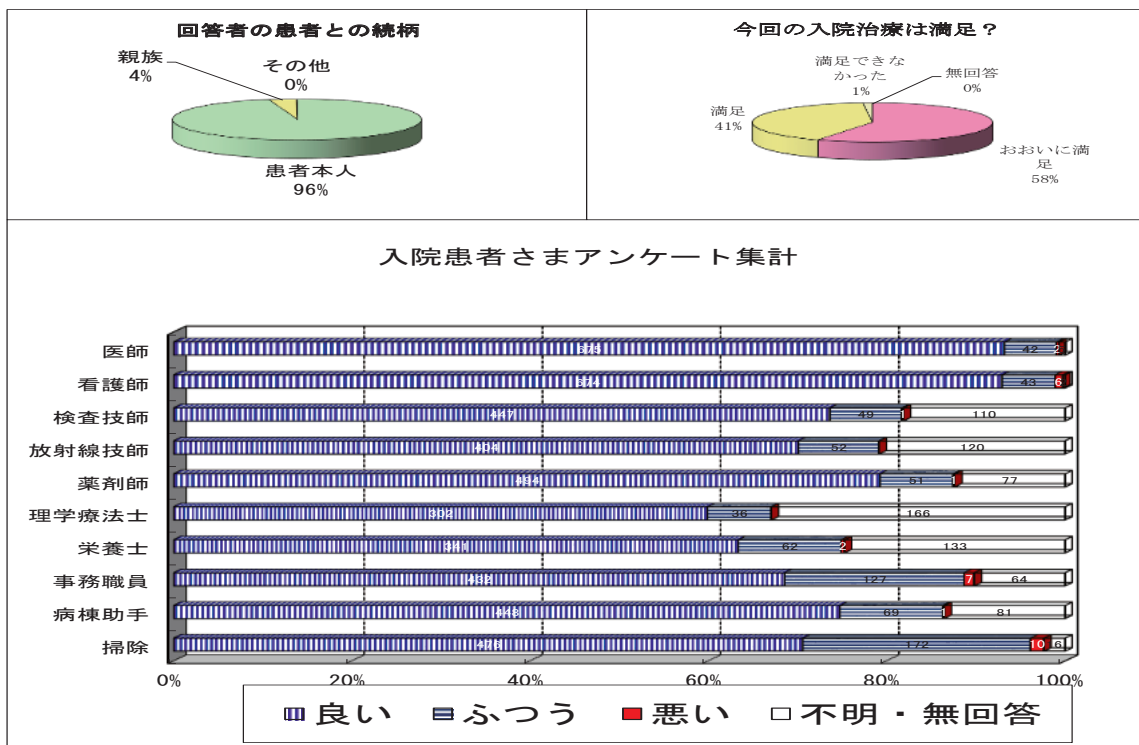
- ① 面会制限についてはコロナの感染状況も見極めながら、緩和することも視野に、院内で検討中です。今しばらくお待ちください。
- ② 受付時間と検査時間が同じ時間で表記されている場合ですが受付を済ました後に検査へ向かっていただいて差し支えありません。
頂いたご意見を踏まえまして院内各署の協力を得ながら、次回外来予約のみの患者さんは診察後会計に直接行っていただく等、少しずつ対応を進め効果が出ているところです。また長い待ち時間の場合、外来スタッフまでお声がけください。当院スタッフからもお声がけいたします。
- ③ 2階「総合案内」（時間外は時間外受付）では付き添いのご家族の方に対し、入院の日や退院の日の送迎、及び手術の日や症状説明等のため病院からの依頼により来院した日について駐車料金の無料の手続きを行っています。駐車券の無料化のためには駐車券への確認印が必要です。病棟ナースステーションに申し出て確認印を受けた後、総合案内へお立ち寄り下さい。障害者用の駐車場は十分なスペースを確保しておりますが、日によって外来の患者様が多く、駐車したいタイミングに空いておらず、ご迷惑をおかけして申し訳ございません。
現状駐車場をこれ以上拡張することは難しく、障害者用のスペースに岡山県の「ほっとパーキングおかやま」駐車場利用証をご利用されている方が、駐車利用できるよう見回りを実施しているところです。ご理解のほどよろしくお願いします。

入院患者さまへのアンケート集計（対象期間 R03.04.01 ～R04.03.31）

入院患者さまへのアンケート集計

患者サービス推進室

対象期間 R03.04.01 ～ R04.03.31
総回収数 729 枚（期間中退院患者数 13,978 人、回収率 5.2 %）
回答者 平均年齢 56.84 歳





国際医療協力室のロゴマーク

● 活動目的

『外国人にやさしい病院』を目指して

- 1) 当院では 2005 年 4 月に国際医療協力室が発足した。(臼井外科医長)
- 1) その間、医療通訳をはじめとする外国人診療体制の整備をいろいろと行なってきた。
- 2) 2006 年から 6 年間は厚生労働省国際医療研究を行なった(3 研究)。
 1. (18 指1)ネットワーク機関における外国人診療のあり方に関する研究
 2. (18 公6)胎児から乳幼児に子育てを軸とした継続ケアの構築
 3. (21 指9)海外渡航者及び帰国者のための効果的な診療体制整備に関する研究－(分担)在日外国人・日本への外国人渡航者の診療体制の構築
- 3) それらをもとにして、2012 年外国人診療の10箇条をまとめた。外国人診療に対する基本的な姿勢を述べている。2013 年改訂。
- 4) 当院でできる海外医療協力を推進している。

● 活動状況

- 1) 海外医療協力(2021 年度はコロナ禍のため実活動はほとんどない)
NPO 中国四国小児外科医療支援機構(本部:岡山医療センター)による活動
ミャンマー等手術ミッション 年に1～2回で平成 23 年 1 月より継続している
当院の医師、看護師が毎回参加している。
海外医療機関からの見学・研修の調整・世話など
外国人医師臨床修練指導医(中村)
- 2) 当院の外国人診療システム充実のための活動
- 3) 外国人診療の手助け、助言
診療に必要な書類掲示物の英訳・助言など適宜行っている。

岡山医療センターの外国人診療

- 患者の家族・知人による通訳
上記がない時は地域連携室・国際医療協力室に連絡
- 多言語医学情報ツールの活用
16カ国対応診療補助表など
- 医療通訳の確保
英語は院内
その他の言語は院外から
岡山国際交流センター 中国語・ポルトガル語など



2019 カンボジア国研修にて

【2021 活動】

1. 急患時のオンライン通訳導入に向けた検討(和田・中村)
2. 機械翻訳の進歩に伴う機器利用のあり方の検討

● 外国人診療の手助けに、16か国語診療補助表というのが、以前より、救急外来、地域連携室に用意しています。2016 年 10 月に、COMEDIX の国際医療協力室のところに掲載しています。該当の国の部分をコピーしてお使いください。

● 日本語のわからない外国人への対応図です。

日本語のわからない外国人への対応 外国人来院

医事科



通訳が必要な外国人



16 か国語診療補助表・機械翻訳などの活用。

CoMedixの委員会・WG一覧の国際医療協力室にある。

(必要な外国語をコピーする)

医事用、担当科医師用、患者用で 1 セット。

それでも通訳が必要な場合は下記に電話



国際医療協力室

室長 中村 信(8844) 副室長 秋山一郎(8512)

医事専門職、和田吉弘(8303)



英語:小川愛子(8125)

ドイツ語:市川孝治(8589)

その他の言語は、すぐには無理です。

(2022 年 3 月 国際医療協力室)

● 活動目的

1. WHO／UNICEF「母乳育児がうまくいくための 10 のステップ（2018 年改定）」に基づき、継続的且つ包括的に母乳育児を支援することを目的として、母乳育児推進室を設置し組織的に運営を行う。
2. 支援の対象は、当院で出生した健康な正期産新生児だけでなく、NICU や小児科病棟などに入院する病児とその母親、疾患を持つ母親など、すべての児と母親、その家族とする。
3. 母乳育児中の母子だけでなく、疾患などのために母乳育児ができない母子に対しても適切な支援を提供する。

● 室 員

顧問：久保 俊英（院長）

室 長：多田 克彦（産婦人科医長）

副室長：常久 幸恵（6A 師長）、中村 和恵（新生児科）

室 員：宮部 恵子（副看護部長）、香川 亮子（5B 師長）、國安 ゆかり、室井 晃子（5B 副師長）

笹田 奈緒（5B）、岩田 珠里、柚木 直子（6A 副師長）、上田 成美、柏木 亜由美、佐藤 珠実
笹岡 あい（6A）、有道 順子、真壁 文恵（看護部長室）

秋山 一郎（乳腺甲状腺外科）、影山 操（新生児科）、岸口 武寛（精神科）

熊澤 一真（産婦人科）、中村 信（新生児科）、古城 真秀子（小児科）、松田 良子（公認心理士）

熱田 幸子（栄養科）、田中 早苗（歯科）、上野 杏菜、平澤 裕美子（薬剤科）

中江 香那（経営企画課）

● 活動状況

1. 推進室会議：2 か月に 1 回開催

2. 院内活動

1) 研修

a) 新採用者向け研修：赤ちゃんにやさしい病院（BFH）オリエンテーション（多田克彦母乳育児推進室長）

b) 初期研修医・学生向け研修：

① 4 月「妊娠・授乳と薬剤」大岡尚美（産婦人科）・中村和恵（新生児科）

② 6 月「BFH とは」（助産学生）→中止

3 月「BFH とは」（看護学生）柚木直子（6A）中村和恵（新生児科）

2) 院内での連携・啓発活動

a) 各病棟からの授乳婦の母乳育児相談（随時）

b) 妊娠・授乳と薬剤に関する相談（妊娠と薬外来、薬剤部と連携）

c) 新型コロナウイルス陽性妊婦の出産後の支援：西 2、西 4、5B、6A と協力し、搾乳の支援、退院前の授乳支援、退院後の子育て支援を継続的に行った。

3. 院外への情報発信

1) 保健医療従事者対象

a) 小児救急医療研修（成育医療研修）：講義・病棟見学→2021 年度中止

- b) 岡山県看護協会・新人助産師研修:
講師: 有道順子(外来)、小谷教恵(6A)→8月実施
多田克彦(産婦人科)、中村和恵(新生児科)→7月依頼あるも直前で中止
- c) BFH 連絡会議参加(オンライン): 11月15日開催
有道順子、香川亮子、筒井円香、中村和恵、的場郁、柚木直子
- 2) 患者様ご家族、一般の方対象
 - a) オンライン母親学級、外来での DVD 視聴開始: 対面での出産前クラスが中止されたため、講義 DVD を作成して外来での DVD 視聴による母親学級を開始した。同時に、オンラインでの母親学級を毎週金曜日に開催した(7月~Teams を用いて毎週金曜日に開催)
 - b) オンラインわいわいサークル: 6A 病棟での退院後のピアサポートのための集まりが中止されたため、オンラインでのわいわいサークルを開始(毎月第4木曜、12月~開催)。
 - c) 病院フェスタ: BFH や乳児栄養に関する情報提供、啓発活動→2021年度中止
 - d) 出前講座
 - ① 南方子育て支援センター育児講座: 中村和恵(新生児科)→2021年度中止
 - ② 中高生への性教育(6A 助産師)→2021年度中止
 - e) 育児相談事業(看護協会)→2021年度中止
 - f) 国際助産師の日(看護協会) BFH ポスター展示: 11月3日(いいお産の日)
- 4. 赤ちゃんにやさしい病院月間(毎年8月1日-31日)活動
 - 1) 世界母乳育児週間(8月第1週)にあわせて、2017年より8月を「赤ちゃんにやさしい病院」月間と設定し、乳幼児の栄養に関する啓発活動を行っている。
 - 2) 2021年度活動
 - a) 赤ちゃんにやさしい病院再認定のための書類審査(3年ごと)→認定継続が承認された。
 - b) 「赤ちゃんにやさしい病院」認定 30 周年ポスター展示(8月~)
 - c) ザ・ジャーナルに「赤ちゃんにやさしい病院認定 30 周年に寄せて」を寄稿(9月)
 - d) 病院 HP に「赤ちゃんにやさしい病院」のページ作成・掲載(2月~)
 - e) 「あかちゃんにやさしい病院新聞 vol. 4」作成(3月)
- 5. 業績(学会発表など)
 - 1) 学会発表
 - a) 有道順子. 「第 29 回母乳育児シンポジウム」シンポジウム 2, もう一度、母乳育児を考えよう(8月29日)
 - b) 中村和恵. 「第 35 回日本母乳哺育学会」シンポジウム, 退院後の母乳育児の拡大(9月19日)
 - 2) 論文など
 - a) 柏木亜由美、藤崎真代. 赤ちゃんにやさしい病院認定継続のための3年間の取り組み, 日本母乳の会ニュースレター第 80 号(10月)
 - b) 中村和恵. 母子関係確立のための母乳: 感染症対策における母乳選択の際の留意点. With neo. 34 (3): 470-474 (2021 年)

● 活動目的

ボランティア室は、独立行政法人国立病院機構岡山医療センターの基本方針に基づいて、病院ボランティアにより患者さんが安らげる療養環境作りと地域社会に寄与することを目的として、平成 17 年に設立されました。

病院ボランティアは、病院の医師、看護師、その他の職員と協力して、患者さんに寄り添い、患者さんがもつ不安を軽くすることによって安心して治療を受けることができるよう、自発的に無償で、病院を利用する人のためにサービスを提供する人で、ボランティアの皆様には専門職ではなくてもできる仕事のお手伝いを行っていただいています。

● 活動状況

令和3度における岡山医療センターのボランティア登録者数は11名(外来5名、読み聞かせ4名、裁縫1名、傾聴1名)。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置を踏まえ一部活動を中止したが、工夫しながら活動を再開した。しかし、活動中止期間が長引いた状況もあり、士気が下がり辞められる方もおられた。

【活動中止期間】

令和3年 5月17日～ 6月21日

令和3年 8月20日～10月 7日

令和4年 1月24日～ 3月 8日

【個別の活動状況】

外来・・・感染対策をとり実施。ただし、感染に不安な方へはリハビリ搬送のみ対応

裁縫・・・主に小児病棟患者さんの医療ケアグッズをひとりひとりに合わせて作成

新たに、一般病棟からの作成依頼へも対応

読み聞かせ・傾聴・・・活動なし(コロナ禍等)

【募集状況】

感染防止対応のため、活動中止期間も多く活動への見通しが立たない状況であったため、新たな募集案内を実施しなかった。(ホームページ、口コミのみ)

しかし、以前の病院内募集ポスター、ホームページを見られた方より問い合わせが2件あり、2名とも登録に繋がった。

患者サポート室

室長 平見 有二

● 活動目的

(目的)

当院受診中の患者さんやそのご家族、当院をこれから受診しようとしている患者さんやそのご家族、以前に当院を受診されたことのある患者さんやそのご家族、といった当院に関わる全ての方々の疾病に関する医学的な質問並びに生活上及び療養上の不安等、といった様々な相談に対応し、個々の問題を解決することを目的に設置

● 活動方針など

(方針)

各部門の対応窓口（以下「対応窓口」とする）の支援体制の確立
対話による問題の整理と明確化、及び代弁・仲介機能による的確な対応、対応窓口への移行の実施

(対象者)

1. 当院受診の患者さん又はそのご家族
2. 当院をこれから受診しようとしている患者さん又はそのご家族
3. その他の関係者

(業務)

1. 相談業務は相談内容に応じて、直接対応あるいは担当者への案件の取り次ぎ
2. カンファレンスを週1回程度開催。相談内容により必要に応じて担当者の参加を求め、取り組みの評価を行うことによる業務体制の見直し
3. 案件によっては、医療安全管理委員会との連携
4. 相談窓口の設置目的、機能、活用方法、各部門における対応等についての、院内配布物や院内イントラネットを通じた各部門への周知・徹底
5. 患者相談窓口の活動に関した、相談に対応する職員、相談後の取扱、相談情報の秘密の保護

(相談方法)

相談方法は、原則として電話相談／対面相談で対応

(窓口の場所)

相談を行う場所は下記の場所とし、相談内容に応じて適宜場所の選定をすることが望ましいが、原則は以下の場所を利用することとする

患者相談室（院外処方せん FAXコーナー） （当院本館2F）

(相談の記録)

1. 最初に電話又は対面で相談、対応した室員は「患者サポート室対応簿」に記載
2. 担当者は、相談内容及びその後の対応について「患者サポート室日誌」に記載

(報告体制)

1. 相談の実績は日報・月報・年報を作成し、室長の決済後に院長へ報告
2. 緊急の対応を要する場合は、直ちに室長から院長へ報告

(不利益を受けない配慮)

室の業務に関連して、患者さんが不利益を受けないように適切に配慮

今年度の活動状況

- 患者サポート相談案件

(2021年度〔2021年4月～2022年2月までの延べ件数〕)

① 直接相談室へ来られた相談件数	460
② 電話による相談件数	66
③ 各部門へ依頼した相談件数	13
④ 診療に関する相談件数	240
⑤ 苦情・クレームの相談件数	40
⑥ 医療安全の相談件数	1
⑦ その他の相談件数	258

- 患者サポート室運用基準の改訂

●活動目的

認知症による行動・心理症状や意思疎通の困難があって、身体疾患の治療への影響が見込まれる入院患者に対し、専門知識を有する医師・看護師及び多職種が適切に対応をすることで、認知症症状の悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられることを目的とする。

●活動状況

1. 認知症患者のケアに係るカンファレンスを週1回程度実施し、原則診察の上「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」のランクを判断して診療録に記録する。各病棟を巡回し、病棟における認知症患者に対するケアの実施状況を把握し病棟職員への助言等を行う。

1) 週一回のラウンドおよびカンファレンス

毎週水曜日：A病棟、毎週木曜日：B病棟、西棟

2) 月別および部署別ラウンドおよびカンファレンスの延べ件数

部署 月	10 A	10 B	9 A	9 B	8 A	8 B	7 A	7 B	6 A	5 A	西 2	西 4	合計
4月	17	11	12	4	37	3	16	13	1	6	3	0	123
5月	7	3	13	5	20	0	4	11	0	3	2	3	71
6月	14	8	8	1	20	12	15	20	1	5	0	0	104
7月	7	2	20	2	12	4	16	24	0	12	0	0	99
8月	9	5	19	7	15	2	4	19	0	8	0	0	88
9月	8	7	27	3	33	3	14	11	0	2	0	0	108
10月	11	13	24	3	26	6	11	20	0	5	0	1	120
11月	7	13	11	3	19	0	1	16	0	3	0	2	75
12月	14	13	10	11	20	8	5	20	1	10	0	0	112
1月	22	8	27	7	26	4	11	13	1	13	1	2	135
2月	3	10	14	4	14	3	8	10	2	5	6	8	87
3月	12	7	13	5	34	0	15	12	1	7	0	1	107
合計	131	100	198	55	276	45	120	189	7	79	12	17	1,229

※ カンファレンスにより、加算対象外の判定や加算解除となった数も含む。

※ 前年比：83.3%と減少であるが、COVID-19による病床体制の変化の影響が続いていると考える。

【認知症ケア加算1】総合入院体制加算2の施設基準の要件の一つ

イ. 入院日数 14 日以内 160 点/日 患者に関与し始めた日から算定

※ 2020 年度より評価体系の見直しが行われ+10 点となった

ロ. 入院日数 15 日以上 30 点/日

※ 身体拘束を実施した日は、イ・ロともに所定点数の 100 分の 60 相当の点数(減算)

2. 身体的拘束の実施基準や鎮静を目的とした薬物の適正使用等の内容を盛り込んだ認知症ケアに関する手順書(マニュアル)を作成のうえ、院内の必要な部門に提示して活用させる。認知症ケアの実施状況等を踏まえ、定期的に当該手順書の見直しを行う。
 - a) 「せん妄の予防と対策について」のパンフレット作成し、入院時に対象者に配布開始した。
3. 認知症患者に関わる職員を対象として、認知症患者のケアに関する研修を定期的を実施する。
 - 1) 「認知症ケア」についての研修会
2021年6月1日(火)
講師:奈良井副室長
方法:COVID-19感染対策のため、全体研修が企画できず、認知症ケア委員会で委員を対象に講義を行い、各部署への伝達講習を通して基礎知識の周知図った。
 - 2) 認知症ケア委員会での事例検討
2021年10月5日(火)
方法:仮想事例を用いたケアに関わる事例検討
認知症ケア委員の知識やスキルの向上を目的として実施。それを基に、各部署で実際の患者カンファレンスで応用し、個々の看護師の認知症ケアに関わる視点を広げ、ケアの質向上を図った。
 - 3) 「せん妄ケア」についての研修会
2021年12月7日(火)「せん妄ケア研修」
講師:岸口精神科医師、大口精神看護専門看護師
方法:全体研修 参加者
4. 看護部認知症ケア委員会と認知症ケア推進のための合同会議の開催。1回/偶数月

●研究業績

学会、研究会

岡山県看護協会学会「A病棟の認知症ケアの現状把握とケアの検討」

2021年11月13日

発表者:河上奈都(西4病棟認知症ケア委員)、共同研究者:大口浩美

専門医研修室

室長 太田 康介(副統括診療部長)

● 活動目的

- ・ 2018年度から始まった専門医制度において認定されているプログラム(当院は基幹施設及び他のプログラムの連携施設)が円滑に運営されるために設置されている。
- ・ 患者さんからの信頼のもと標準的な医療提供しうる医師育成のため、医師の専門研修の支援を行う。
- ・ 他院専門医プログラムの連携施設として専攻医を受入れる。

● 活動状況

1. 内科

2021 年	4 月	1 日	専攻医と指導医の顔合わせの会、オリエンテーション
	4 月	16 日	連携施設説明会
	5 月	26 日	内科専門医研修プログラム説明会
	7 月	2 日	第 1 回 内科専門研修委員会
			第 1 回 内科専門医研修プログラム管理委員会
	8 月	27 日	内科専門医研修プログラム臨時会議
	9 月	1 日	内科専門医研修プログラム臨時会議
	9 月	13 日	2022 年度内科専攻医採用試験
	9 月	22 日	内科専門医研修プログラム臨時会議
	12 月	1 日	第 2 回 内科専門研修委員会
2022 年	2 月	25 日	第 2 回 内科専門医研修プログラム管理委員会
	3 月	23 日	第 3 回 内科専門研修委員会(年度評価の承認、修了認定)

- ・ J-OSLER 関係(技術・技能評価、多職種評価、症例・病歴要約査読等)の入力支援
- ・ 連携施設として参加している基幹施設のプログラム管理委員会への出席
- ・ 室における内科専攻医との面談や意見交換(随時、あるいは室長面談に同席)
- ・ 採用試験に伴う準備



(内科専攻医 2 期生 記念撮影)



(内科専門医研修プログラム管理委員会)

2. 外科

2021 年	9 月	11 日	第 1 回外科専門研修管理委員会
2022 年	2 月	19 日	第 2 回外科専門研修管理委員会

3. 総合診療科

2021 年 4 月 8 日 2020 年度 研修修了の報告

2021 年 10 月 1 日 2021 年度 研修中間報告

2022 年 3 月 15 日 2021 年度 研修状況について報告

- ・ オンライン研修手帳の入力支援(技術・技能評価、多職種評価等)

■ 修了報告

NHO 岡山医療センター内科専門医研修プログラム 3 名修了、1 名修了見込み(7 月時点)

NHO 岡山医療センター外科専門医研修プログラム 2021 年度修了生 2 名修了

4. 専攻医への支援

- ・ 専攻医内科外来(毎日)の診察補助
- ・ 専攻医事務補助(手続き、出張手続きなど)

5. その他の活動

- ・ 専攻医受け入れ、転出に関する事務(諸手続き・資料作成)
- ・ 当院専攻医希望者の病院見学の対応
- ・ 研修に関する連携施設との調整
- ・ 専門医制度に関する統計等の整理・管理

● 専攻医数

◆ 基幹施設プログラム

内科専門医研修プログラム 23 名 (1 年目:9 名 2 年目 7 名、3 年目 6 名)

外科専門医研修プログラム 3 名 (2 年目:1 名、3 年目:2 名)

総合診療科専門医研修プログラム 1 名 (2 年目:1 名)

◆ 連携施設としての受入れ 25 名 (6 ヶ月～1 年間)

- ・ 内科 3 名(倉敷中央病院内科専門医研修プログラム 上期 2 名・下期 1 名)
4 名(岡山赤十字病院内科専門医プログラム 上期 2 名・下期 2 名)
1 名(岡山ろうさい病院内科専門研修プログラム 上期 1 名)
1 名(津山中央病院内科専門研修プログラム 下期 1 名)
- ・ 外科 1 名(岡山大学広域外科専門研修プログラム)
- ・ 小児科・新生児科 3 名(岡山大学病院小児科医専攻研修プログラム)
- ・ 皮膚科 2 名(岡山大学病院皮膚科研修プログラム)
- ・ 整形外科 4 名(岡山大学整形外科専門研修プログラム)
- ・ 産婦人科 2 名(岡山大学産婦人科研修プログラム)
- ・ 泌尿器科 1 名(岡山大学泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム)
- ・ 放射線科 1 名(岡山大学病院放射線科専門研修プログラム)
- ・ 麻酔科 1 名(岡山大学病院麻酔科専門研修プログラム)
- ・ 形成外科 1 名(川崎医科大学形成外科専門研修プログラム)

● 活動目的

2019 年度より排尿ケア推進室として認可されています。今回で活動報告は 4 回目となります。

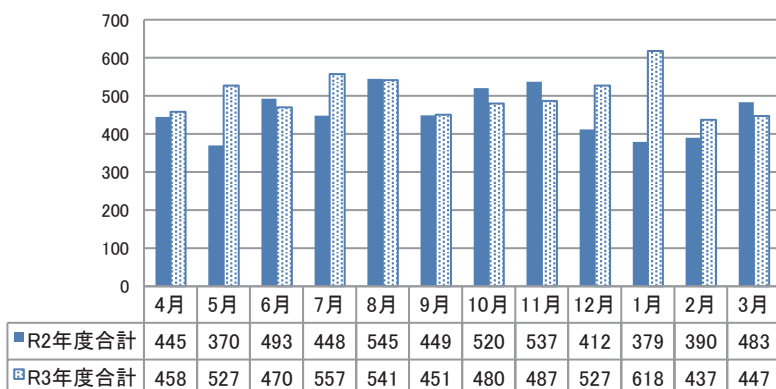
1. 国立病院機構岡山医療センターにおける患者の排尿自立支援を推進する目的に、多職種と協力して排尿ケアの実践と院内教育を行う。
2. 室の業務は次のとおりとする。
 - a) 下部尿路機能障害の症状(尿失禁、尿閉等)を有する患者の抽出
 - b) 下部尿路機能評価のための情報収集
 - c) 下部尿路機能障害を評価し、排尿自立に向けた計画を策定
 - d) 包括的排尿ケアに対する病棟スタッフへの指導とケア実施後の評価
 - e) 排尿自立指導の実践状況(尿道カテーテル留置患者数、排尿チーム介入患者数、排尿障害件数、有熱性尿路感染症件数等)を把握する
 - f) 院内研修の実施

● 活動状況

1. 2021 年度の活動状況

- a) 排尿ケアラウンドとして、毎週月曜日に病棟へ出向き、個々の症例について排尿自立に向けた計画を策定、実践した
- b) 奇数月に排尿ケアチームによる委員会と、勉強会を開催した
- c) 排尿ケアチームに携わる資格取得のため、所定の研修を新規に 5 名が受講した
- d) 全職員を対象に、2021 年 8 月 5 日、8F 大研修室にて排尿ケア院内研修会を開催し、57 名の受講者があった

排尿自立指導料算定件数
前年度比較



● 活動目的

入院患者の褥瘡の予防及び早期発見・治療、褥瘡ケアの質の向上を目的とする。

● 活動状況

1. 褥瘡対策マニュアルの改訂・追加

2. 入院基本料に関する活動

1) 日常生活自立度評価: 100%、褥瘡に係る診療計画書の記載: 100%

2) 体圧分散式マットレスの整備を実施

破損・消耗しているマットレスは 25 台/年あり、回収・交換を実施

エアマットレスの整備: 約 80 名/月に使用している

3) 褥瘡発生・スキン-ケア予防に対する保湿ケアの導入

4. 褥瘡に係るカンファレンス・褥瘡回診の実施

5. 褥瘡ハイリスク患者ケア加算(500 点)に関する活動

・褥瘡ハイリスク患者に対してアセスメントを実施し褥瘡予防治療計画書を作成・実施・評価

・院内研修の実施

新人研修 1 回/年、全体研修 1 回/年、エキスパートナースコース研修 6 回/年

● 活動実績

1. 毎週月曜日に褥瘡回診を実施

回診・カンファレンス延べ件数

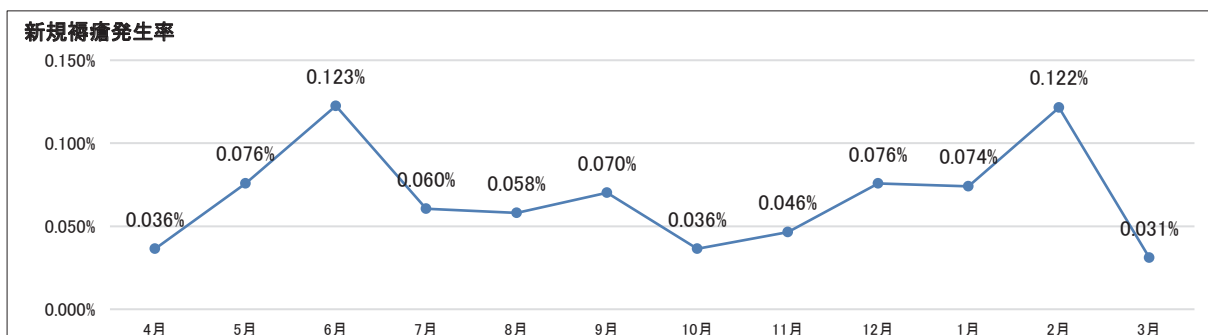
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
件数	21	31	35	20	37	21	38	54	37	35	44	45

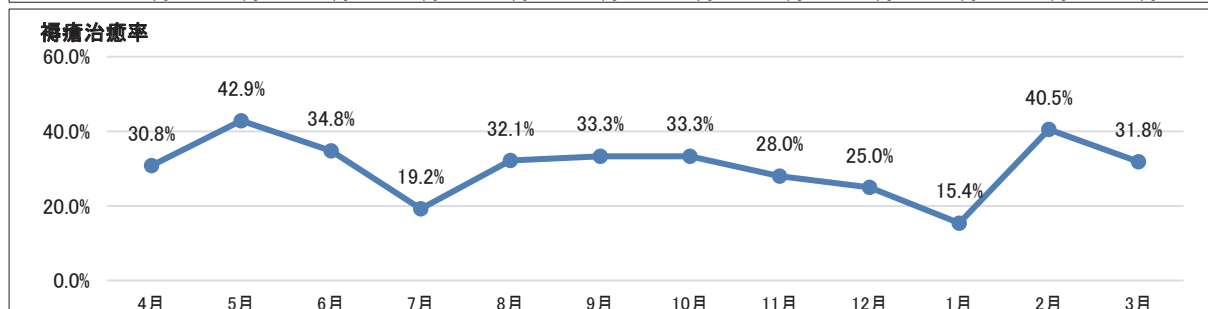
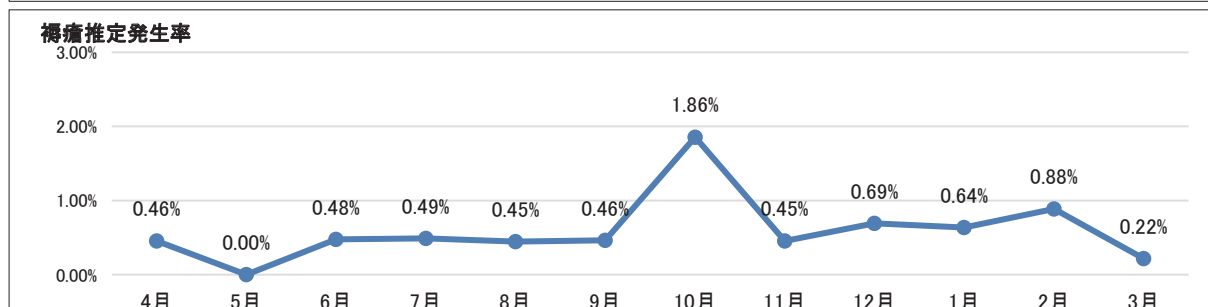
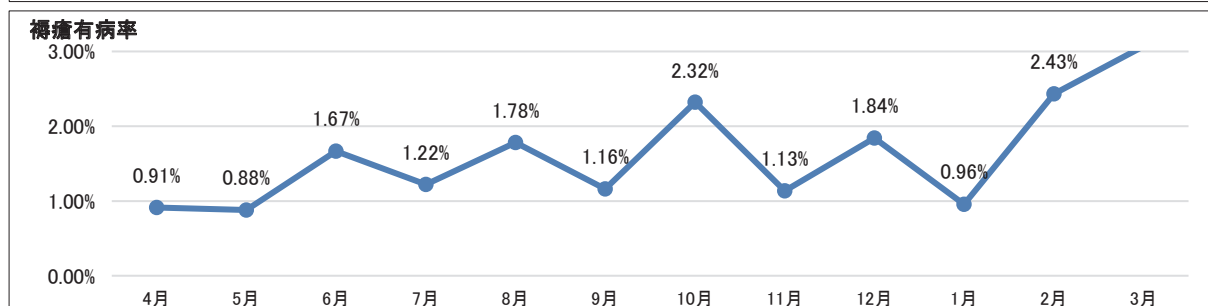
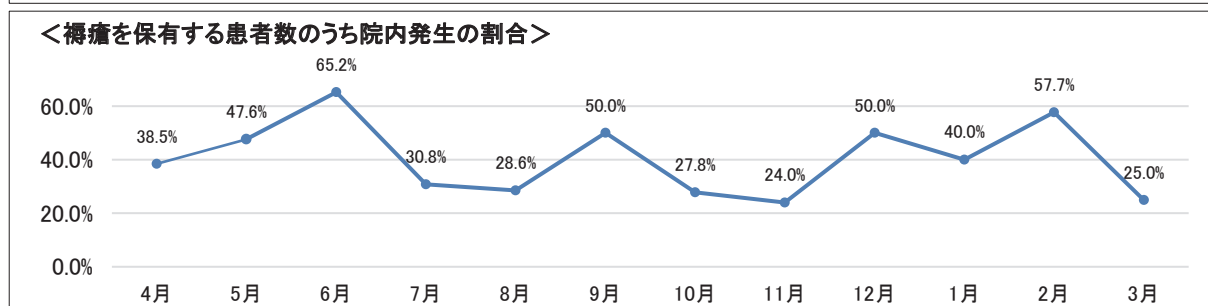
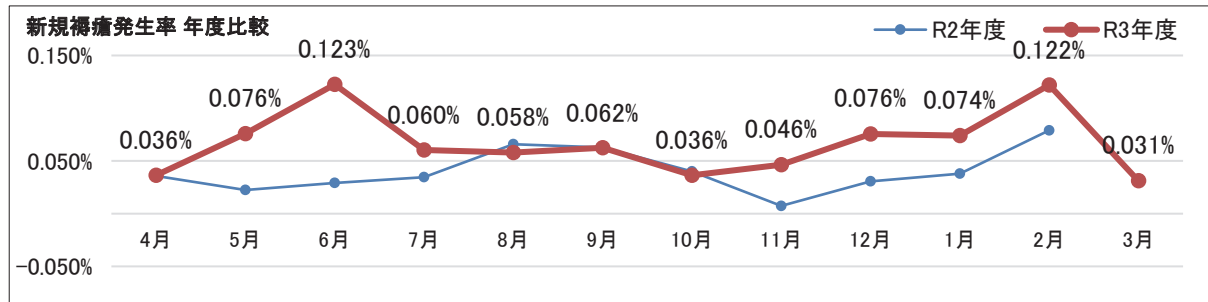
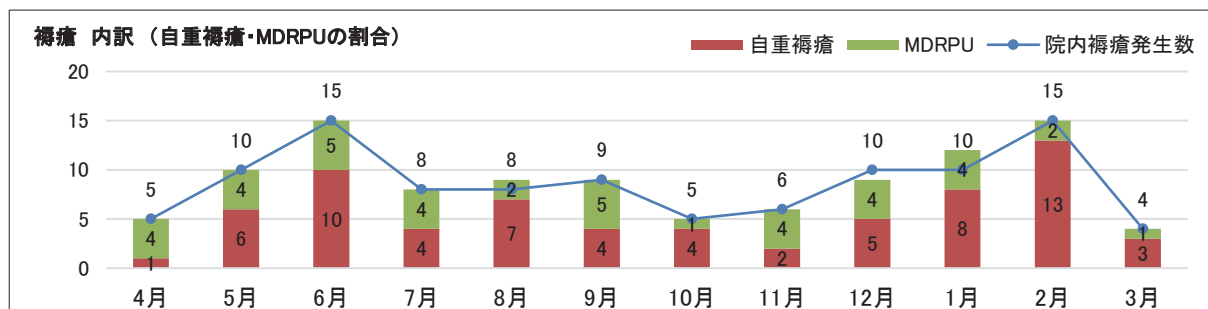
1 回の回診: 平均 5 件 所要時間: 約 1 時間～1 時間半

2. 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
件数	122	108	124	117	122	108	125	97	97	81	158	202

3. その他データ





●研究業績等

1. 講演・講義

1) 院外: 岡山看護協会研修 高齢施設での看護[褥瘡・排泄編]講義

2021 年 11 月 9 日 松田晶代(皮膚・排泄ケア認定看護師)

2) 院内: 岡山医療センター附属看護助産学校 「褥瘡の基本とスキン-ケア」講義

2021 年 9 月 30 日・10 月 1 日 松田晶代(皮膚・排泄ケア認定看護師)

2. 学会、研究会

なし

3. その他

なし

RRS (Rapid Response System) 室

室長: 松原 広己

● 活動目的

岡山医療センターにおける患者の病態変化に対して早期に認識・介入し、重篤有害事象を軽減する

● 活動状況

1. RRS 構築準備

- 1) 室規程作成
- 2) メンバー決定・承認
- 3) RRS 起動手順・起動基準・記録システムの検討
- 4) RRS に関する全職員への周知（医療安全研修会：2021. 9. 13～2021. 10. 31）

2. RRS 起動状況（2021. 9. 27～2022. 3. 31）

	月日	年齢	要請場所	要請者	要請理由	訪室時状況	介入内容	結果	担当者
1	11/15	81歳	9A	看護師（福光）	気切孔からの出血	消化管出血	耳鼻科、消化器内科コンサルト 胃管の刺激による食道潰瘍からの出血 終末期であったため、胃管抜去、ヘパリン中止、PPI開始	ほぼ止血	DR岩本 NS福光
2	12/3	57歳	7B	薬剤師	高熱、WBC:500 CRP:39 抗がん剤による副作用と考えているが、経過観察でよい	主治医、看護師、薬剤師とのコミュニケーション障害と患者の苦痛のコントロール不足	RRS医師より主治医へ方針確認、職種間の橋渡し	方針確認され、それぞれが納得 緩和ケアの介入	DR服部 NS福光 ME藤本
3	12/7	88歳	9A	看護師（9A）	意識消失	意識消失しており、舌根沈下呼吸	エアウェイ挿入し、酸素吸入開始し、呼吸状態は改善 CT:著変なし トロポニン陽性 循環器科コンサルト	症状は改善 原因ははっきりせず、今後冠動脈CT予定	DR岩本 NS福光 RST
4	12/28	57歳	8A	医師（Dr岩本）	頻呼吸、呼吸困難、意識レベル低下	換気不全による呼吸性アシドーシス（高度肥満、気管支壁肥厚、舌根沈下） 意識レベル低下	NPPV装着	ICU転棟 気管挿管、人工呼吸器装着	DR岩本 NS福光
5	2/2	87歳	8A	看護師（8A）	SPO2低下、呼吸音減弱	SPO2低下あり、喀痰貯留あり 酸素マスク4L/minにUP ビソルボン吸入中	吸入後、咳嗽促し吸引して淡血性痰を多量に回収してSPO2は改善した。	軽快	DR岡本 NS福光 ME藤本
6	3/14	88歳	8A	看護師（福光）	意識レベル低下 呼吸パターンの変調	JCS:30 呼吸浅表微弱で、努力呼吸あり	ABG採取、NPPV装着、アルブミン、利尿剤開始	PCO2:改善 意識レベルやや改善 リハビリの検討	Dr岩本 Dr岡本 福光

2) CAC 発生状況調査

2021 年度 CAC 発令: 25 件(このうち RRS 発足後: 9 件)

CAC 発令のうち、回復: 8 件

3) 院内急変による ICU・CCU 転棟事例の分析(2021.9.27～2022.3.31)

電子カルテより抽出した病状変化による ICU・CCU 転棟事例: 27 件

4) RRS 起動推進のための方策検討

- ・研修会の企画実施による周知活動
- ・他施設の情報収集
- ・フィジカルアセスメント力向上のためのキャンペーン活動

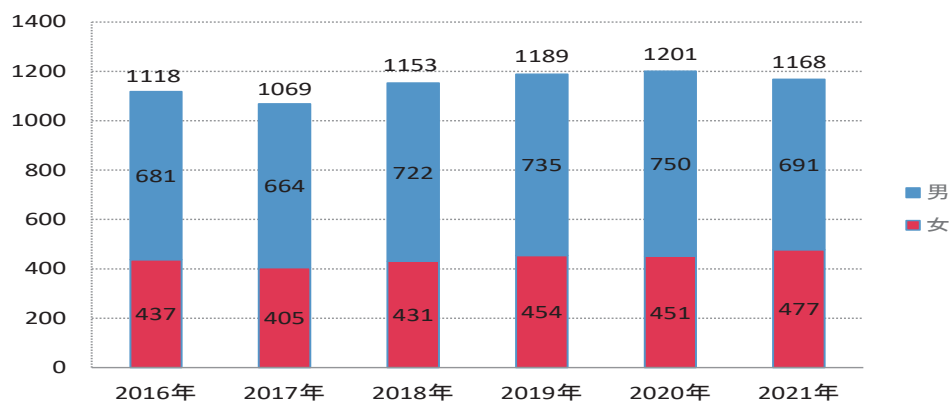
● 活動目的

1. 「院内がん登録」は、がん医療の提供を行う病院において、そのがん医療の状況を的確に把握するため、自施設を初診し、がんの診断・治療を受けた全患者についての診断結果、初回治療内容、予後情報を登録、保存することを目的として行う。
2. 登録したデータを用いて、自施設の特徴を把握したり、より良い医療の提供に繋げたりするために、がん診療に関する情報を積極的に提供する。
3. 院内がん登録の情報を、国立がん研究センター及び都道府県がん登録室に届出する。専門的ながん医療を提供する医療機関の実態把握の基礎資料、がん対策の評価に活かされる。

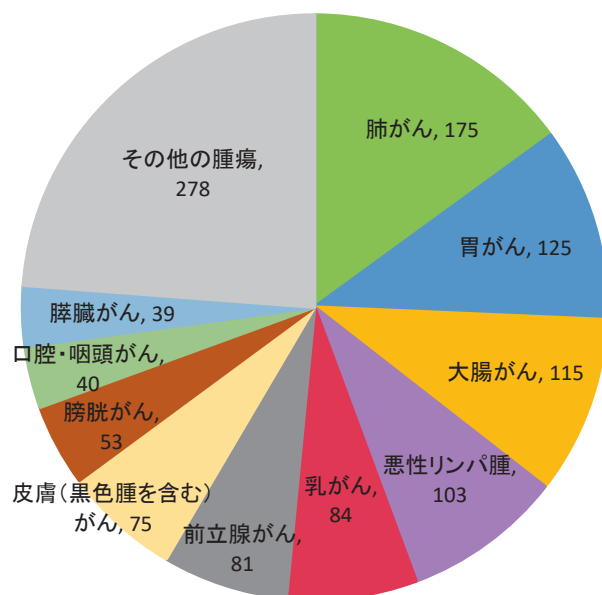
● 活動状況

1. 院内がん登録

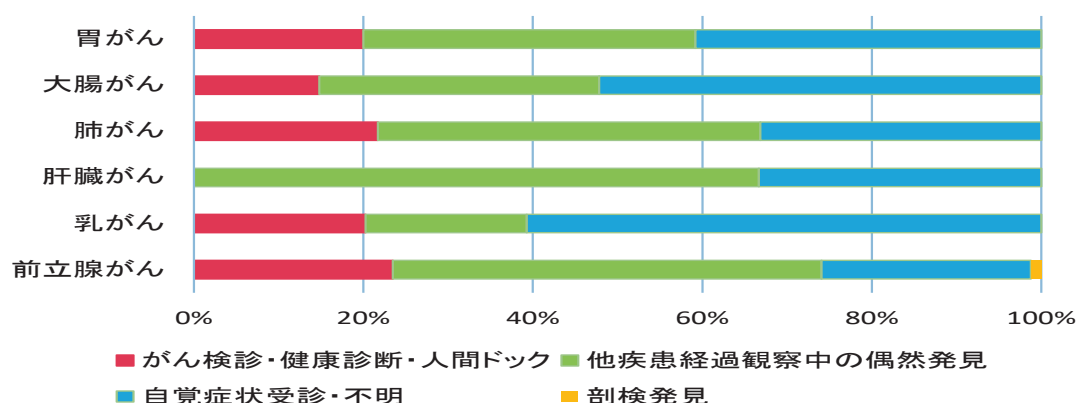
① 登録数の年次推移



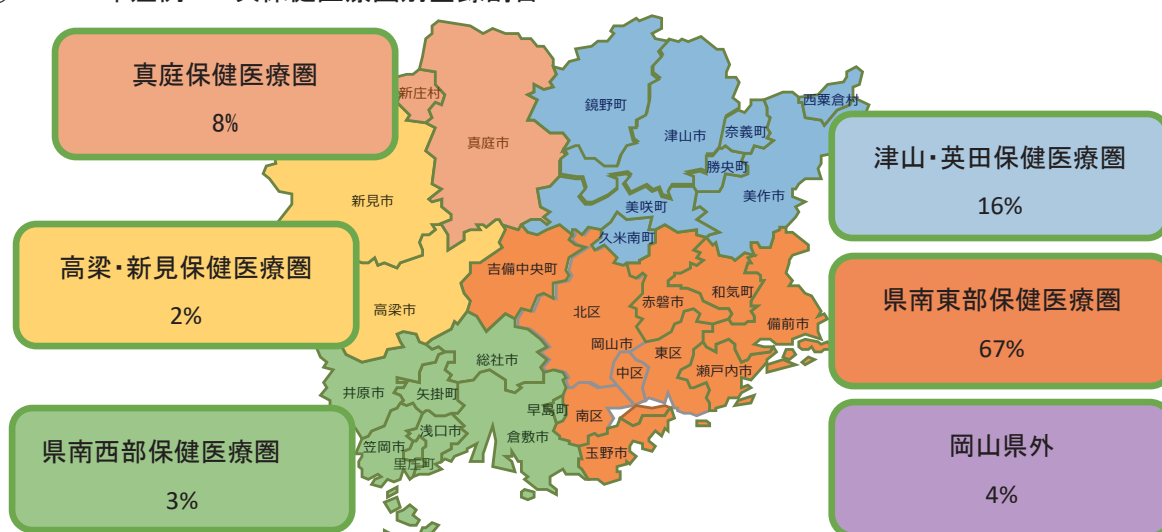
② 2021年症例 部位別登録数 Top10



③ 2021 年症例 部位別発見経緯の割合



④ 2021 年症例 二次保健医療圏別登録割合



2. 院内がん登録予後調査支援事業【2010 年症例(10 年予後)・2015 年症例(5 年予後)】

- 生存状況が不明な登録症例データの提出 = 359 件

3. 院内がん登録予後情報付集計データの提出【2009 年症例(10 年予後)・2014 年症例(5 年予後)】

- 生存状況把握割合(国立がん研究センター公表)

対象症例年	対象症例数	死亡数	打ち切り数	把握割合
2009 年症例(10 年予後)	802 件	463 件	84 件	89.5%
2014 年症例(5 年予後)	872 件	361 件	(7-9)件	99.0%

※集計値が 10 件以下の場合は、1～3 件、4～6 件、7～9 件として公表

4. 院内がん登録と DPC を使った QI(標準診療の質を評価するための指標(Quality Indicator))研究

- 2019 年院内がん登録対応表ファイル(個人識別情報)と DPC 調査の 2018 年 10 月～2021 年 3 月分の外来・入院の EF 統合ファイル(診療報酬算定情報)及び様式 1 ファイル(入退院情報、病名情報等)を使用して提出用ファイルを作成し提出
- 2018 年症例の、標準的な治療の実施が行われていない症例について二次解析を行い提出

5. 岡山県がん診療連携協議会がん登録部会の主催、議事録の作成

- 2021 年 3 月 9 日開催

● 設立の背景

がんの組織または末梢血を使って多数の遺伝子を同時に調べる「がんゲノムパネル検査」によって、遺伝子変異を解析し、それを元に治療を行うことを「がんゲノム医療」と言います。2019年6月にがんゲノムパネル検査が保険適応となりました。対象患者は①標準治療が終了②標準療法がない③原発不明がん④希少がん⑤小児がんです。2020年1月にがんゲノム医療連携病院に認定されたため、がんゲノム医療を実践する組織として設立、2020年10月から活動を開始しました。

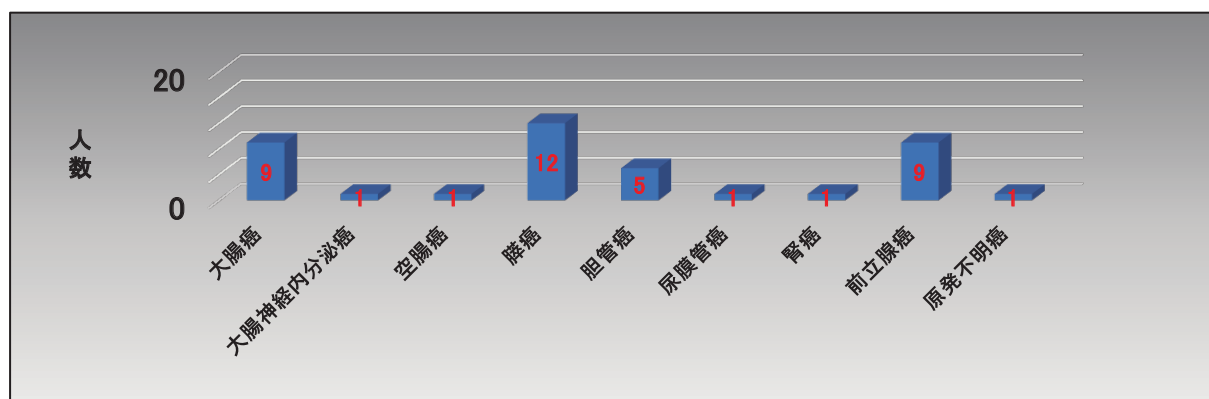
● 活動目的

がんゲノム医療を実践することを目的としています。

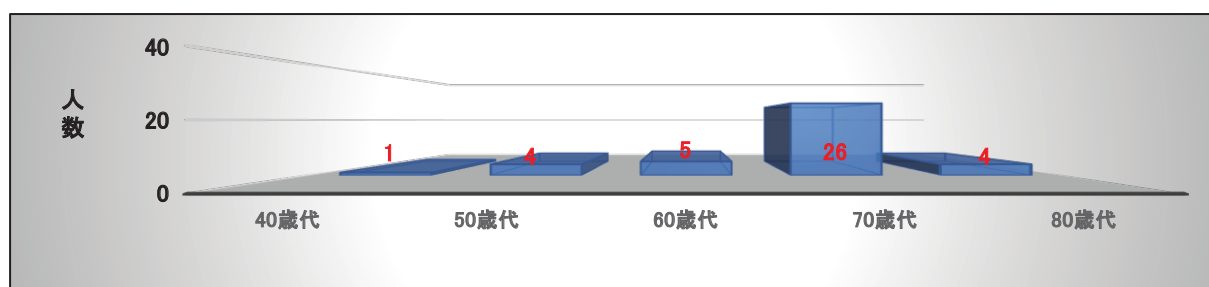
● 活動状況

2021年1月から2022年3月末までの実績は下記の通りです。

1. がんゲノムパネル検査を受けたがん種別の症例数



2. がんゲノムパネル検査を受けた年齢



3. がんゲノムパネル検査を受けた診療科別・性別

